

愛知医科大学学報



令和4年度医学部卒業記念品
ホールクロック（大学本館3階学生ホール）



令和4年度看護学部卒業記念品
非常用照明機器セット「最後の砦」及びポータブル電源一式
（医心館3階）

（関連記事10頁）

＝ 第170号 ＝ 2023.4月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1
〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス
www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

就任ごあいさつ	2
令和5年度入学式	4
令和4年度卒業式	7
令和5年度予算大綱	13
主な役職者の改選	28
教授就任インタビュー	30
退職を迎えて	33
教育・研究最前線	81
Smile ～スマイル～	82



—愛知医科大学病院の 持続的発展に向けて—

病院長 道勇 学

本年4月1日付を以て、病院長二期目を拝命致しました。昨期は、長引く新型コロナ禍に屈することなく職員一丸となって着実な歩みを継続することができ、ステークホルダーの皆さまには大変感謝する次第です。現在、病院が取り組むべき8課題に着手しており、引き続き適正なガバナンスに基づくコンプライアンス向上とリスクマネジメント維持に努め、今期も本院が持続的に発展していくことができるよう、任を果たす所存です。

(1) 医療の安全性と質の向上

医療安全管理室スタッフの多大なる貢献が本院の医療安全レベルを高く保ち、支えています。今期は、インシデント報告件数の確実な増加促進、医療事故への継続的な安全対策推進等、更なる医療安全管理体制強化・安全意識文化の醸成に注力したいと考えます。医療の質向上については、PDCAサイクルを本格的に常態化させ、医療安全管理力に裏打ちされた総合的診療力の涵養を目指します。また、協働的意思決定の推進、心理的安全性の高い職場環境の整備等、多面的な質向上にも努めたいと考えます。

(2) 経営基盤強化に繋がる病院経営

昨期は、大学病院としての医療者意識改革「打って出る攻めの診療報酬算定請求」を推進し、経年的な収入増加が達成できました。今期は、医療安全の観点からも極めて有用なSCU及び経過観察病床の稼働、診療域別診療単価の経時分析と増収方略の自律的考案、職種別適正人員配置策の検討を進めたいと考えます。

(3) 臨床医学研究・先端医療開発の充実

臨床領域における研究の充実には、基礎医学・研究施設部門、他大学・研究施設との共同研究、企業との研究提携が必須と考えます。現在、臨床研究法に基づく研究は9プロジェクトが進行中です。今期はこれらの支援を始め、働き方改革推進に鑑みた臨床医の研究成果及び効率性を検証した上で弾力的な環境整備を行い、更なる臨床研究成果の向上を目指したいと考えます。

(4) 有能な医療人の育成と活用

卒後臨床研修センターでは、人間性豊かで社会の信

頼に応える医師の育成を理念とし、継続的に教育・研修体制を見直しつつ種々の取り組みを実践しています。今後は、より質の高い医療技術提供を目的として、チーム医療を意識したより多職種対象の研修体制を構築したいと考えます。

(5) 地域医療連携の促進

「顔の見える連携」を掲げて病-病連携体制や医療者人材交流を展開する地域医療連携推進プロジェクトが結実しつつあります。今後は医療連携センター、看護部の協力の下、病院への更なる同化、強固な連携に発展させたいと考えます。

(6) 救急医療体制の充実

本院にとって一次から三次まで全ての救急診療を断ることなく受け入れる体制を常に維持することは必定です。今期は、救急医療体制改革プロジェクトの到達目標である一次・二次と三次を統合した新たな救急医療体制、外傷救急診療体制、超診療科的専攻医救急研修教育体制を確立し、医療安全向上、地域信頼関係向上、病院経営向上に繋げたいと考えます。

(7) 働き方改革への対応

来年度に本格始動を控えた働き方改革の整備が佳境を迎えており、現在は自己評価シートと医師労働時間短縮計画の医療勤務環境改善支援センター受審段階にあります。今期は厳密な時間外労働時間管理および医師労働時間短縮計画を忠実に遂行し、本院の働き方改革を着実に完結させたいと考えます。

(8) リハビリテーション医療の充実

リハ医療の拡大・充実、医療の質向上、経営基盤強化、地域医療連携強化、Brain Interfaceを始めとする先端リハ研究への参入等、病院への波及効果に留まらず、将来的には本学リハ学部増設の実現に向けた教育基盤の提供など、大学全体にとって多大な貢献が期待されます。今後大学からのスタッフ増員要請等の沙汰に応じ、迅速な効率的リハ実施体制の整備・運用に結びつけたいと考えます。



—大学での学修と学生生活を満喫 する中で自律性を育み、未来に 向けたキャリアデザインを描こう—

看護学部教務学生部長 若杉 里実

令和5年4月1日付けで、成人看護学の高橋佳子教授の後任として、看護学部教務学生部長を拝命致しました。私は、平成24年4月に本学に着任し今年で11年目を迎えます。学部の委員会活動としては、教務委員会、学生委員会、広報委員会、入学試験委員会、倫理委員会、研究委員会等に携わらせていただきました。また、平成29年11月10日に本学と愛知県立長久手高等学校との高大連携に関する協定を締結してからは、「医療看護コース」の授業計画の調整及び実施に携わらせていただいております。

看護学部は、令和2年度に創立20周年を迎え、愛知県の歴史のある私学の一つとして、多くの優秀な看護師・保健師を輩出してきております。令和4年4月からは、新カリキュラムをスタートさせました。教育理念としては、①人間尊重を基盤とした豊かな人間性 (Humanity)、社会と人々の暮らしや健康を支える地域性 (Community)、国内外の多様な文化と価値観を尊重する国際性 (Internationality)、社会の変化や多様な状況・場に対応できる看護実践能力 (Professionalism) の四つをコア・コンセプトと位置づけ、看護の発展に貢献し続ける実践者の育成を目指しております。

令和5年4月からは、通常授業の運用を再開しております。学修の実際としては、令和4年度新生からは講義資料のペーパーレス化を行ってきておりますので、アンケート等で学生の意見を聞き課題を抽出し、改善に取り組んでいきたいと思っております。また、授業・演習・実習においては、令和4年4月より看護学部・大学病院の看護部メンバーで構成する「ユニフィケーション推進検討委員会」を設置し、定例会議を行っ

ております。具体的な取り組みとしては、看護連携担当教員による授業・演習・実習の実施、学部教育における看護部職員の協力依頼方法のシステム化、大学院の看護部職員の協力による学部生の卒業前研修等を実施し、より実践的で臨場感のある教育教材の作成や演習が可能となってきております。

学生生活では部活動やサークル活動が再開され、学生同士の交流も活発化してきております。学内の大学行事やボランティア活動及び長久手市大学連携推進ビジョン4U事業を通して学生が他大学の学生や地域住民と交流し、地域性が育まれていくことを期待しております。更に、令和5年度は学術国際交流協定大学の一つであるマハサラカム大学 (タイ王国) の短期留学生を受け入れる準備を進めておりますので、学術交流活動を通して学生が国内外の看護実践に関心を持ち学び合える機会になると思います。

学生のキャリア支援としては、1学年次に教員と上級生による新入生研修、2学年次の本格的な実習を前にキャンドルセレモニー、3学年次に進路支援として進路説明会・懇談会・履歴書作成と模擬面接を実施し、段階的に学生自身のキャリアがみえるように整えてきております。学生が自己の変化・成長を自覚し、未来に向けたキャリアデザインを描いていける自律した看護師・保健師を養成していきたいと思っております。

最後に、令和5年度看護学部では、日本看護学教育評価機構による看護学教育評価を受審致します。この受審結果を踏まえ、今後の看護学部の教育の改善と発展の方向性についての議論を重ね、教員と事務職員が協働で進めて参ります。

令和5年度愛知医科大学入学式

医学部・看護学部入学式



令和5年度入学式が、令和5年4月2日（日）午前10時から大学本館たちばなホールにおいて挙行されました。【写真】

当日は、新入学生及びご家族の方（1名まで）に参列いただき、ホール内に換気装置を設置するなどの感染拡大防止対策を行った上で、プログラムを短縮して式が執り行われました。また、参列できなかったご家族を始め、関係者の方々にも式典の模様をご覧いただくことができるようにYouTubeでのライブ配信を併せて行いました。

初めに、祖父江元 学長からの式辞があり、219名（医学部116名、看護学部103名）の新入学生を代表して看護学部の若林瑚々夏さんから、「学則並びに諸規則を守り、先生方のご指導に従い、本学学生としての自覚を持ち勉学に励むことを誓います。」との宣誓が行われました。

最後に、在學生を代表して医学部6学年次生の小寺利奈さんから「入学式を迎えられた皆さんは、今、希望に満ち溢れていることと思います。しかし、大学に入学することは決して到達点ではなく、むしろ出発点です。皆さんは、これからたくさん

学び、様々な経験を積み重ねていくこととなります。国家試験に合格することはもちろん、良き医療人となることを目指し、新たな一歩を踏み出してほしいと思います。新型コロナウイルス感染症の感染拡大が未だ終息を迎えない今、本学においても慎重を期した感染対策や活動制限の下で講義や実習、部活動が行われている現状にあります。思い通りにいかないことや、大変なことがあるかもしれませんが、楽しいこと、嬉しいこともたくさん待っています。信頼できる先生方や仲間がたくさんいます。困難に直面しても、決して一人で悩んだりせず、先生方や先輩、同級生の仲間を頼ってください。きっと大きな助けになってくれるはずです。在學生一同、皆さんの学生生活が有意義で価値のあるものとなることを心から願い、皆さんと一緒に大学生活を送れることを楽しみにしております。」と歓迎の辞が述べられ、午前10時30分頃に式は終了しました。



宣誓を述べる若林さん



小寺さんからの歓迎の辞

学長 祖父江 元



本日は、医学部、看護学部の入学試験を見事パスされ、ここに入学式を迎えられた皆さん、学長として、心よりお祝い申し上げます。新型コロナウイルス

感染症が完全には終息していませんので、少し変則的な入学式ですが、皆さんの晴れの入学を心からお祝いしたいことには変わりはありません。誠におめでとうございます。

本学は、昨年創立50周年を迎え、今年は次の50周年に向けた新たな年でもあります。昨年11月3日の開学記念日には記念式典が開催され、大変多くの関係者の方々にお集まりいただきました。また、現在種々の記念事業を進めております。先人のこれまでの努力に改めて感謝し、本学の今後の更なる発展に向けて努力したいと思います。今後どうぞ宜しくお願い致します。

さて、これから皆さんには、それぞれ4年間、6年間の大学生活が待っていますが、何をしようと思っ
ていますか？色々な思いを描きながら今、皆さんはここに居ると思いますが、ここでは三つの点を述べてみたいと思います。

第1は、医師国家試験や看護師国家試験及び保健師国家試験が待っていることです。これを見事にクリアしてもらいたいと思います。それをクリアすべく努力する。これは、今後の大学生活の重要なパートです。それぞれの指導のスペシャリストが居ますので、サポートを得ながら安心して頑張ってもらいたいと思います。今年、本学での医師国家試験における新卒者の合格率が100%となり、しかも115人という大人数での全員合格となりました。医師国家試験での新卒者合格率100%及び115人という大人数での全員合格は本学始まって以来のことです。また、

看護師国家試験及び保健師国家試験のいずれも合格率100%の全員合格となりました。大変素晴らしいと思います。この三つの国家試験の結果がいずれも100%合格であったことは、創立50周年に相応しい快挙と思います。

更に、Times Higher Educationの大学ランキングでは、教育リソース分野（学生一人当たりの資金や教員比率など）において、本学は日本の全ての大学の中で第10位でした。これは、愛知医科大学の教育レベルの高さの一端を示すものかと思
います。国は今後、高齢化・少子化による人口減少に伴い、少しずつ医師過剰の時代に移行していくと考えており、医師国家試験そのもののやり方を、より実践医療的なものに変えていこうとしています。本学としてはシステムを大きく補強し、今後も国家試験における合格率100%を目指していきたいと思っ
ています。是非、皆さんも頑張ってください。

第2は、友達を作ることです。大学の友達は高校時と違い、職業や研究のフィールドが共通するため、一生の友達になることが多く、価値観も、より多様化してきますので、多様性ということ
を学びながら友達を作ってもらいたいと思
います。

第3は、自分の将来の目標を考えてもらいたい。自分は将来何を目標そうとしているのか。どのような人になりたいか。是非、長いスパンで将来の目標を考えてほしいと思
います。自分は何をやり、何になるかを決めるのは難しいことですが、大学時代は一生の中でも又とない機会です。私自身のこととしては、大学生時代や大学院の時代に考えたことが、その後の長い時間を経て振り返ると、無意識にその方向に向かっていた。私は神経内科医ですが、神経の病気の中にはアルツハイマー病やALS、パーキンソン病といった神経変性疾患というものがあり

ます。当時、ほとんど治療法がないものであったため、何とか治療法を開発できないかと本気で思っていました。従って、何となく臨床研究者（特に、治療開発研究者）を目指していたと思います。何になりたいかをいつも考えていた訳ではないですが、長い時間を経て気が付いてみると自分がそのような道を歩んでいたと感じています。三つ子の魂百までということわざがありますが、大学生の魂百までということのように思います。皆さんには将来に向け、大変広い選択のバラエティが用意されています。あまり広いとかえって難しいかもしれません。私が今後重要と考えているのは、病気の「予防」です。私は今、内閣府及びJST（科学技術振興機構）が行っているムーンショット型研究プログラムのプログラムディレクターを仰せつかっています。これは何をやるのかというと、膀胱がん、認知症、糖尿病、ウイルス感染症などのアンメットニーズの高い病気をターゲットにして未病状態を探すことです。未病というのは、健常から病気の発症までの間に、病気に向かって変化しているものの、まだ発症に至らない、或いは健常に戻り得るというものです。疾患の未病

大学院入学式

令和5年4月2日（日）午前9時20分から大学本館711特別講義室において、令和5年度大学院入学式が挙行されました。【写真】

式では、医学研究科博士課程26名、看護学研究科修士課程15名の計41名の新入学生を代表して、医学研究科の大久保友人さんから、「学則並びに諸規則を守り、先生方のご指導に従い本学大学院学生としての自覚を持ち、勉学に励むことを誓います。」との宣誓が行われました。

を明らかにし、それをターゲットに介入して予防に結びつけようという、いわば国家プロジェクトとして進めています。これまでの医学は、病気の発症後に手を打つ、治療を考えるというものですが、発症から遡って未病の段階で予防するということです。

最初は皆さん、そのようなことはできないと言っていました。今では医学の形をかえるかもしれないと思っており、追加予算が付いたこともあって段々と本気になってきています。この予防という領域は、今後の医学の中の大きな領域になるのではないかと予感がします。私の印象では、最初から皆さんが素晴らしいと言うことは、あまり大したことではないと思います。皆さんが「そのようなことはできない。そんなバカな。」と言うことが、実は重要であるということが多く感じます。自分は何になりたいか、何が大事かということで将来構想を考えてみてください。これを真剣に考えるということが大事であり、継続することで目標は必ず近づいてきます。

本日は、誠にありがとうございます。皆さまには是非頑張ってくださいと思います。



続いて、祖父江元 学長から告示が述べられ、式は終了しました。

令和4年度愛知医科大学卒業証書・学位記授与式

医学部・看護学部卒業証書・学位記授与式



令和4年度卒業証書・学位記授与式が、令和5年3月4日（土）午前10時から大学本館たちばなホールにおいて挙行されました。【写真】

当日は、卒業生及びご家族の方（1名まで）に参列いただき、ホール内に換気装置を設置するなどの

告 示

学長 祖父江 元



本日は、医学部・看護学部の課程を無事卒業され、ここに卒業式を迎えられた皆さん、保護者の皆さん、学長として、心よりお祝い申し上げます。誠にありがとうございます。

毎日が新型コロナウイルス感染症との戦いで、本当に大変だったと思います。授業は多くがWebになり、実習もあまりできず、何よりも大学に出てきて友達と会話をするのができなかったと思います。今年の卒業式は、コロナ第8波が未だ終息していないため、若干変則的な式となり、制限付きではありますが保護者の方にも同席していただいております。まずは、皆さんがこの晴れの卒業を迎えられたことに心からお祝いしたいと思います。この卒業式を迎えられたのは、皆さんの努力もさることながら、多くの人の支えがあったからだと思います。ご家族の方々、先輩や同僚の人たち、教員の方々、そして何よりも実習などで協力していただいた患者さんや、その家族の方々など、改めて感謝の意を表したいと思います。これから皆さんは、

感染拡大防止対策を行った上で、プログラムを短縮して式が執り行われました。また、参列できなかったご家族を始め、関係者の方々にも式典の模様をご覧いただくことができるようにYouTubeでのライブ配信を併せて行いました。

初めに、祖父江元 学長から、医学部卒業生115名を代表し堤明日香さんに、看護学部卒業生95名を代表し大野晴佳さんにそれぞれ卒業証書・学位記が授与されました。続いて、祖父江学長からの告辞が述べられました。

この後、在学学生を代表して看護学部3学年次生の川合萌菜子さんから送辞が、卒業生を代表して医学部の伊藤りほさんから答辞が述べられ、午前10時45分頃に式は終了しました。

社会人として、医療に携わるプロとして、新しい生活が始まります。改めて、この門出をお祝いしたいと思います。

また、令和4年度は愛知医科大学創立50周年に当たります。令和4年11月3日（木・祝）には、記念式典が盛会のうちに行われました。先人のこれまでの努力に感謝し、本学の今後の発展に向けた思いを新たにしているところです。どうぞ宜しくお願い致します。

さて、お祝いのあいさつとして医学部と看護学部それぞれの卒業生に期待したいことを一つずつ述べます。まず、医学部を卒業する皆さんですが、General Physicianの視点について述べたいと思います。これから2年間の初期研修を終え、それぞれが志望する領域の専門医研修に入ると思います。専門医研修は大変重要ですが、同時に広く患者さんの病状を見るGeneral Physician (GP) の視点も是非持って欲しいです。このGPの視点の涵養は、今後の医学教育の重要課題になっています。欧米のイギリス、アメリカ、カナダ、北欧などでは、Specialist（専門医）とGPは学生のときから分かれています。

GPは、いわゆるFamily Medicineを担う医師であり、一定の地域を任されて、その地域の人々を一生に亘って診るシステムになっており、必要に応じて専門医に紹介することになっています。一方、日本では、ほとんどの人が研修医を経て専門医になります。従って、欧米と異なり一人ひとりの医師がGPであると同時に、専門医の基盤を持っています。例えば、患者さんを診たときに、どのように各診療科にトリアージすれば良いか、どのように専門医に繋がれば良いのかという能力が必要であると指摘されています。また、患者さんの高齢化で、一人の患者さんが複数の疾患を持つことが多く、GP的な力が大変必要になってきているのです。加えて、疾患との共存期間が大変長くなっており、病態の変化に対応しなければなりません。例えば、パーキンソン病を例にすると、経過20年以上のヒトが大変多くなっており、認知症や自律神経障害、呼吸不全・循環不全など多彩な症状が出てきます。更には、救急などの場面では、正にGPとしての力が必要です。結局は、自分の専門を超えてフレキシブルに患者さんに対応できる医師としての基本能力ということになると思います。一方、現在の医学教育が、どちらかと言うと専門医型教育になっていて、GPとしての教育が少ないと言われています。医師個々のGP能力の必要性が社会的にも叫ばれており、現在これを克服する方法が考えられていますが、上手くいっていないのが実状です。

本学では来年度から、この点を克服するシステムを進めます。一つは救急医療であり、もう一つは特に内科医師のメディカルセンター配属です。救命救急科には、特に2次救急の様々な疾患の患者さんが受診してきます。専門領域を越えた研修が可能であり、3か月程度の研修を重ねることによって、救急の素養とともにGPとしての視点が備わるのではないかとされています。私自身も振り返ってみて、GP的な能力の取得は初期研修、後期研修の時期が大変重要と思っています。本学でもそれが可能なシステム作りを進めたいと思っていますが、是非皆さんには、今後の研修の中でこのGPの視点を持つことを心掛けていただきたいです。

看護学部を卒業する皆さんには、まず看護師の職域は近年大変広がっていることを理解してもらいたいです。高度化手術、急性期医療、慢性期医療、地域医療、或いは治験・行政・教育の領域まで医療のニーズに合わせて大きく広がってきています。この

うちNPについて少し紹介します。NPは、Nurse Practitionerの略で、従来医師しか行うことができなかった医療行為を一定の条件で行うことができ、手術部、麻酔科、外科領域や内科領域でも、力を発揮できる看護師です。2年間の修士課程が必要となりますが、欧米などでは医療を進める上で、無くてはならない職種になっています。本学のNPについては、一昨年から大きく改革が進んでおり、独立部門としてキャリアパスを作ることができるようになりました。給与待遇も大幅に向上し、研修システムも今までとは異なる新しいシステムを作りました。また、NPコースの定員を増やすことによって活躍の場が広がり、奨学金制度も大きく拡張しています。更に、1年後には本学看護学部博士課程を創設することを進めており、その中心はNPの博士課程 Doctor of Nursing Practice (DNP) です。DNPの創設ができれば、これは日本では3校目であり、NPの修士課程と博士課程が揃うことで、本学が日本のNPのメッカになると期待しています。日本におけるNPの役割がどうあるべきか考えられていますが、本学が日本のオピニオンをリードできる立場になることができればと思っています。皆さんには、キャリアパスの一つの例として考えていただくと良いと思います。いずれにせよ、看護師は患者さんに接する時間が長く、直接の対応も多いことから、医療を進める上で最も重要な役割を担っていると思います。明治時代の医学の父、或いはビタミンの父とも言われた高木兼寛氏は慈恵会医科大学の創設者ですが、同時に日本で最初の看護学校を創ったヒトでもあり、「医師と看護師は車の車輪の如し」という言葉を残しています。今では当たり前の話ですが、明治の時代にこの言葉を残していることが大変素晴らしいと思います。是非、各人のキャリアパスを描いて活躍されることを期待しています。

最後に、これは皆さんへの期待です。皆さんの中から、愛知医科大学の次の世代を背負う人が是非出てきてほしいと思います。私は、本学が今後更に大きく飛躍していくことが必要だと思います。そのための基本は、皆さんのような若い力だと思っています。皆さんが成長し、臨床家として、研究者として、或いは実践家として、本学飛躍の担い手として本学に戻ってきてほしいと思います。

本日は誠にありがとうございます。皆さんの今後の活躍に期待しています。

送 辞

看護学部3学年次生 川合 萌菜子



冬の厳しい寒さも少しずつ和らぎ、やわらかな陽の光に春の訪れを感じられる季節となりました。この良き日に、先輩方のご卒業を迎えられましたことを在學生一同、心よりお祝い申し上げます。

今日ここに晴れの日を迎えられましたことは、先輩方を温かく支えてこられたご家族の深い愛情や、先生方の熱心なご指導、そして、何より先輩方日々の努力が実を結んだ結果であると思います。

今、愛知医科大学で過ごされた日々をどのように振り返っていらっしゃるのでしょうか。同じ志を持つ仲間と出会い、勉強、実習、課外活動に励んだ毎日。語り尽くせぬほどの思い出を紡いだ、かけがえのない時間の中で、医療に携わる者として、そして一人の人間として着実に歩みを進められてきたことと思います。ときには大きな壁に直面しながらも、自らの力を信じ、

仲間と支え合いながら乗り越え、今日まで志を貫いてこられた先輩方の姿は、輝きに満ち溢れ、私たちの目に眩しく映ります。大学生活での様々な経験を通して改めて命の尊さを学び、先輩方は今、それぞれの思いを胸に、自らが思い描く未来への一歩を踏み出されようとしています。この先、如何なる壁が待ち受けていようとも、本学で養われた豊かな人間性や、確かな思考力、知識、技術、倫理観、精神力は、先輩方が歩まれる道のりを照らす灯となることを確信しております。温もりのある心で命と向き合い、新たな未来を切り拓いていかれる先輩方の姿をお手本とさせていただき、私たちが在學生もより一層努力して参ります。

最後になりましたが、これまで良き先輩として私たちに導き、優しく見守ってくださったことに心より感謝し、今後のご健勝とご活躍を願いつつ、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は、ご卒業誠におめでとうございます。

答 辞

医学部卒業生 伊藤 りほ



日を追うごとに暖かさを増していき、春の芽吹きを感じる季節となりました。本日は、先生方及び保護者の皆さま方にもご臨席いただく中で、私たちのために卒業式を挙行していただきましたことを卒業生一同、厚く御礼申し上げます。今日という日を迎えられたことを心より嬉しく思います。

振り返ってみますと、大学生活に期待を膨らませ入学した後、カリキュラムの忙しさや膨大な試験の数に圧倒され、その後待ち受ける長い学生生活に不安を感じていましたが、何とか今日という日を無事迎えられたことは、熱心にご指導くださった先生方、ともに困難を乗り越えた同級生や道を示してくださった先輩方、慕ってくれる後輩、家族の存在があってこそだと実感しています。これからは責任の伴う立場となり、

これまで以上に困難を経験することになりますが、この大学生活で得たことを糧とし、乗り越えて参ります。また、大学生活を支えてくださった全ての方々に感謝し、一社会人、一医療人として与えられた環境で、精一杯取り組み、私たちが大学生活で得た知識、患者さまから学ばせていただいた経験をしっかりと社会に還元する所存です。

最後になりますが、学長先生、在校生の方々に御礼申し上げますとともに、お世話になりました先生方、医学部後援会、大学職員の皆さま方、そして、これまで惜しみない支援をしてくださった家族に、心から深く感謝申し上げます。そして、本学の更なる飛躍をお祈りするとともに、卒業生の名に恥じぬよう日々努めていくことを誓い答辞とさせていただきます。

本日はありがとうございました。

ホールクロック寄贈

令和4年度医学部卒業生からの卒業記念品として、大学本館3階学生ホールに「ホールクロック」が設置され、令和5年3月4日（土）の卒業証書・学位記授与式終了後に除幕式が行われました。【写真】

当日は、祖父江元 学長，笠井謙次医学部長，鈴木耕次郎教務部長，高村祥子学生部長に加え、令和4年度卒業生の代表者として丹羽永理奈さんを始め6名が出席しました。

代表の丹羽さんからは、「これから新しい門出を迎え、それぞれの道に進みます。愛知医科大学で出会った先生方，後輩，友人たちと離れていても同じ時間が流れているという意味を込めて、そして、皆が幸せな時間を過ごしてほしいという願いを込めて、ホールクロックを贈ります。在学生の憩いの場で、日常生活の一部として使用していただきたいと思います。」と贈呈の言葉がありました。



続いて、祖父江学長から、「素晴らしい記念品を贈っていただき、ありがとうございます。時間というものは皆さんが共通して持っているもの。これから良い時間を過ごして、時間の大切さ，時間の価値を共有していきましょう。」とお礼の言葉が述べられました。

非常用照明機器セット「最後の砦」及びポータブル電源一式寄贈

令和4年度看護学部卒業生からの卒業記念品として、非常用照明機器セット「最後の砦」及びポータブル電源一式が寄贈され、令和5年3月22日（水）に7号館（医心館）3階フロアにて除幕式が行われました。【写真】

除幕式には、祖父江元 学長，坂本真理子看護学部長，若杉里実教務学生部長を始め、本学役職者と令和4年度卒業生が参加しました。

始めに、卒業生を代表して番井愛結さん，増田彩花さん，村井理花子さんから、「私たちは、コロナ禍での学生生活で人と人の繋がりの大切さに気付き、医療に携わる者として命に対する意識が高まりました。この経験は私たちが看護師になる上で活かすことのできる経験であると感じています。今年度の卒業記念品は、万が一の時に命を守り、後輩とその大切な人たちとの繋がりを保ち、後輩たちが、明るく，楽しく，自らの目標とする看護師になれる学生生活を過ごすことができるよう願いを込めて贈呈



致します。」との贈呈の言葉がありました。続いて、祖父江学長及び坂本看護学部長から、「災害時に電気と照明は大変重要で必要になるものと思います。大変素晴らしい記念品を寄贈いただき誠にありがとうございました。」とお礼の言葉が述べられました。

なお、今回の贈呈品のうち非常用照明機器セットの耐用年数が10年となっていることから、耐用年数経過後は贈呈時写真の展示等により引き継いでいくこととなります。

大学院学位記授与式

令和5年3月4日（土）午前9時20分から大学本館711特別講義室において、令和4年度大学院学位記授与式が挙行されました。【写真】

式では、医学研究科博士課程修了者22名を代表して北村文也さん、看護学研究科修士課程修了者10名を代表して里昌樹さんの2名に対し、祖父江元 学長から学位記が授与されました。

続いて、祖父江学長から告示が述べられ、式は終了しました。



創立50周年記念写真集発刊

本学が2022年度（令和4年度）をもって創立50周年を迎えたことに伴い、令和5年3月に『愛知医科大学創立50周年記念誌【写真集】』が発刊されました。

これは、1972年の開学以来50年にわたる本学発展の軌跡を視覚的にまとめたものです。



写真集の発刊は、創立30周年記念事業として刊行された『写真集 愛知医科大学の歴史1970～2006』以来であり、編纂に当たっては、周年誌や各種広報誌並びにアーカイブズに保管された膨大な写真・資料を紐解きながら作業が進められました。数千枚に及ぶ写真・資料の中から約370枚の写真が選定され、それらに付随するエピソードとともに誌面が構成されています。

写真集は創立50周年記念サイトにてデータを公開しておりますので、是非ご覧ください。写真集を捲る全ての方に、これからの本学の飛躍への期待を抱いていただけることを願っております。



創立50周年記念サイト
< URL > <https://amu-50th.com>

創立50周年記念事業募金のご協力をお願い ～先進の医療を人と社会と未来へつなぐ～

愛知医科大学は、昭和46年（1971年）に設置認可を受け、翌昭和47年（1972年）4月に開学しました。その後大学院医学研究科（1980年）、看護学部（1999年）、大学院看護学研究科（2003年）を開設し、現在は2学部・2大学院研究科の学園体制となっています。

「建学の精神」の下、「社会から評価され、選ばれる医科大学」を基本方針として定め、学是「具眼考究」

を掲げ、教育・研究・診療の各分野において活躍すべく、勇往邁進に取り組んで参りました。

本学は、令和4年（2022年）4月に創立50周年を迎えました。次なる50年へ本学が飛躍していくため、「創立50周年記念事業（教育・研究・診療の基盤整備事業）募金」の趣旨をご理解いただき、募金に対しまして格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

《創立50周年記念事業募金概要》

- 募 金 目 的 創立50周年を記念して行う本学の発展に向けた教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業資金
- 目 標 金 額 10億円
- 募 集 金 額 個人1口1万円，法人1口5万円 ※できましたら，多数口のご協力をお願い致します。
- 税制優遇措置 所得税（法人税）上の税額控除が適用される対象法人としての証明を受けております。
 $(\text{寄附金額}^{*1} - 2,000\text{円}) \times 40\%$ を所得税から直接控除^{*2}
 ※1 年間寄附金合計額が年間総所得額等の40%が限度
 ※2 所得税額の25%が限度

＜計算例＞ 愛知医科大学へ10万円寄附
 $(\text{寄附金額 } 100,000\text{円} - 2,000\text{円}) \times 40\% = \text{税額控除額 } \underline{39,200\text{円}}$

【寄附特典1】 創立50周年記念グッズの進呈

1回の寄附金額 1万円以上



カラビナソーラーライト（LEDソーラーライト）

1回の寄附金額 10万円以上



電子体温計（平均20秒予測検温）

【寄附特典2】 寄附者（ご芳名）の顕彰

寄附金額 10万円以上



プレート芳名板（1号館1階ロビー）

寄附金額 100万円以上



タイル芳名板（中央棟エントランスウェイ西側）



お問合せ先

学校法人愛知医科大学 法人本部 資金・出納室
 TEL (0561) 63-1062 FAX (0561) 62-4866
 E-mail : sikin@aichi-med-u.ac.jp



愛知医大 募金 検索

令和5年度予算大綱

令和5年度予算が、令和5年3月20日（月）の理事会、評議員会において承認されましたので、お知らせします。

本年度予算は、救急医療体制改革の一環としての経過観察入院病棟や、救急管理棟の整備、リハビリテーション医療の拡充に向けた施策、各フロアにおける病床追加や外来化学療法室の拡張など、将来に向けた病院活性化に繋がる大型プロジェクトを盛り込みました。また、各職域での働き方改革を実現するため、特に医療職員において人員増や業務委託化の推進を行い、人手不足の解消、負担軽減を図ることとしました。

愛知医科大学は、イノベーションをキーワードに将来の大きな成長に繋がる事業を中心に予算化し、編成したところです。

教育分野については、医学教育について、多彩な教員研修を実施する予定であり、6年間全体の医学教育モデルコアカリキュラムに沿ったカリキュラムを検討することや、医学教育の現状とその教育改革をテーマとした宿泊研修、臨床実習の充実化、アクティブラーニングの実践をテーマとしたFD・講演会、他大学への視察などを計画し、全教員に対してスキルアップの機会を数多く提供し、効果的な教育を展開していくことを目指します。

共用試験への取り組みとして、CBT専用サーバーの更新や、共用試験OSCEに使用する録画機器の整備、また、評価者が評価を入力するタブレット端末の整備など公的試験化されるタイミングでの充実化を図ります。

また、解剖実習室の空調設備改修工事を行い、室内換気を行いつつ一定の温度と湿度に保つことで、解剖学実習学生、手術手技術者のホルムアルデヒド暴露低減、結露等によるカビの発生抑制を行い、室内環境を良好に保ちます。

看護学部において、令和5年度は看護学教育評価受審の年となりますが、これに向けて教育プログラムの外部者評価を受けることとし、内容の充実と客観性の強化を図り、内部質保証機能を充実させます。

また、令和7年度の博士課程開設に向けて令和5年度中に設置申請書類を作成していくことから、本学の事情に明るく、しかも大学院設置申請経験が豊富な教員を招聘し、手続きの準備を進めます。

研究分野については、近年の医学研究においては、ヒト患者由来のiPS細胞等での病態解析等を行うことが世界的にも重要な流れになっており、本学とし

てもiPS細胞を扱う研究組織を持つことは大変有益であり、本学の既設研究施設で関連性の深い加齢医学研究所の新研究部門として体制を整備していくこととし、「神経iPS細胞研究部門」として専任教員（教授1名、准教授1名、講師・助教2名）を配置し、iPS研究を推進します。

また、研究業績管理システムを更新し、大学、病院における教員等のプロフィール、研究業績情報をresearchmap（多くの研究者の登録・閲覧実績があり、補助金採択審査時にも参照されるデータベース）と連携して一元管理の上、学外に公開することで専門分野に通じた人材の存在を広く世間にアピールし、本学の知名度向上を図ります。

そして、院内治験コーディネーター（臨床検査技師）2名を増員することで、院内CRCの業務過多により外部委託する事例を防ぎ、新規治験受入を円滑にできる環境を整備します。

医療分野については、リハビリテーションニーズの増大と多様化に伴い、各診療科からの依頼件数が増加したことによる患者一人当たりの一日の実施単位の減少に対し、スタッフを15名増員することで実施（請求）単位数の回復、増加を図ります。そして、更なるリハビリテーション医療の拡充を目指し、多様化や潜在的なニーズに対応するため、増員と合わせて療法室の大幅な拡張を図ります。

令和5年1月に愛知県の重症外傷センターの指定を受けたことに伴い、今後、より効果的に重症外傷に対応できる設備が必要となるため、令和4年度の重点事業としていた救命のCT装置更新事業について再度検討し、CTとアンギオを同一室内に備えたハイブリッドERとして整備することとしました。

その他、病院建設時に導入した機器も9年を経て更新のタイミングとなることから、検査の根幹を支える採血・採尿業務システムや、機器試薬トータル販売システムを更新、MRI更新についても5台体制にもう1台追加して計6台にしてから順次更新を行うことで、常に最低5台は稼働する体制を維持するなど、安定した診療体制を確保するための投資を行います。

薬剤師不足に対応するため、産休・育休代替派遣の薬剤師を雇用することで、常に必要な人員を確保すること、また、薬剤師資格を必要としない薬剤補助業務をSPDに移行し、薬剤師病棟業務の時間を確保し、患者記録に専念できるようにすること、更には増加傾向にある抗がん薬調製・払い出し作業への

負担軽減策として抗がん薬調製支援ロボットを導入します。

栄養部調理室勤務の調理師が令和9年度までにまわって定年退職を迎えることから、今後も安定的に患者給食、保育所給食を調理・配膳を提供できるように、残業の負担軽減策として業務の一部委託化を進めます。併せて、令和4年度診療報酬改定に伴い、特定機能病院において病棟専従の管理栄養士を配置することで入院栄養管理体制加算の算定が可能となったため、管理栄養士5名を採用し、5病棟を対象として配置することとしました。今後、活動状況の評価を行いながら必要な拡大を目指します。

<主な事業>

教育・研究に関するもの

■ 教育環境の整備

○ 機材及びシステムの老朽化による更新

- ・ 共用試験CBTの際にデータを保存しておくための専用サーバーを更新する。
- ・ 公的化されるOSCEに備えて必要な録画機器等の整備をする。
- ・ 有効的な実技演習実施のため、小児シミュレーターの購入をする。
- ・ 実技試験や研修で利用するためのCVカテテル挿入研修用エコーの購入をする。
- ・ シミュレーションセンター開設時に購入した高機能シミュレーターの定期メンテナンスを実施する。
- ・ 劣化が見られる学生用ロッカーの更新をする。

○ 教育研究活性化引当特定資産を財源

- ・ 医学部若手研究者に対する教育研究奨励助成を実施する。
- ・ 看護学部若手研究者に対する研究助成を実施する。

○ 国際交流推進引当特定資産を財源

- ・ 外国人研究者に対する滞在費助成を実施する。

■ 研究環境の整備

○ 研究業績管理システムの更新

- ・ 研究業績管理システムの更新を行い、専門分野に通じた人材を広く世間に公表する。

○ 法医解剖に伴う検査機器等の購入及び整備

- ・ 密閉式自動固定包埋装置の購入をする。
- ・ 中毒分析システムの再整備をする。

○ 倫理審査申請システムの改修

- ・ 改正された倫理指針に基づく研究の審査及び管理体制を整えるため倫理審査申請システムの改修を行う。

○ 解剖実習室（研究棟101実習室）空調設備改修工事

- ・ 学生実習及びセミナー、手術手技術者の遺体解剖中における室内環境を良くする。

○ 動物実験施設の環境整備

- ・ 5号館（総合実験研究棟）において、ボイラーと熱交換器の更新工事、空調設備更新工事を行い、動物実験施設の設備環境を維持する。

○ 研究支援業務システムの開発・導入

- ・ 永続的に維持・保守ができるようシステム開発を行うことで研究支援体制を強化し、大学の研究力向上を図る。

■ 研究活動の活性化

○ 「神経iPS細胞研究部門」を設置

- ・ 加齢医科学研究所の新教育研究部門として、「神経iPS細胞研究部門」を設置し、専任教員を配置する。

○ 薬剤感受性に関わる細胞内情報伝達分子の解析システムの更新

- ・ 本学基礎研究に基づく、診断薬及び治療薬開発に向けた応用研究のための研究環境を整備する。

○ 私立大学研究ブランディング事業

- ・ 「健康維持・増進を支える次世代先制地域医療：炎症評価コホート研究」を継続実施する。

■ 教員評価制度

○ 教員評価制度の処遇反映

- ・ 処遇反映制度を導入することで、教員のモチベーション向上を狙う。

■ その他

○ 継続的な教育改革の実施

- ・ 教員に対して多彩な研修を実施し、全教員に対してスキルアップの機会を多く提供する。
- ・ 改革的かつ効果的な看護学部運営のため、将来のリーダー候補者等に対して企業マネジメント等を学び、組織のマネジメントやリーダーシップを学修する。

○ 看護学教育評価の受審

- ・ 日本看護学教育評価機構が実施する看護学教育評価を受審する。

本院の医療に関するもの

■ 教員・スタッフの増員

○ 消化器外科医の増員

- ・ 他大学や外部機関との連携、外来患者数の増加に対応するため消化器外科助教を1名増員する。

○ 腎移植外科医の増員

- ・ 移植を必要とする患者に高度医療を提供するため、腎移植外科助教を1名増員する。

○ 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の増員

- ・リハビリテーションニーズ増大と多様化に対応するため、理学療法士6名、作業療法士7名、言語聴覚士2名を増員する。
- 歯科技工士の増員
 - ・全国唯一である体面補綴外来に歯科技工士を1名増員し、更なる患者の獲得を目指す。
- 臨床工学技士の増員
 - ・医療の質、安全性の向上をより高めるために、臨床工学技士2名（ICU部門に1名、機器管理部門に1名）を増員する。
- 公認心理士の増員
 - ・がん拠点病院としての機能を維持するため、公認心理士を1名増員する。
- 臨床検査技師の増員
 - ・新規治験受入れを円滑に行う体制を整備するため、臨床検査技師を2名増員する。
- 労働環境の改善
- 管理栄養士の増員
 - ・特定機能病院として栄養スクリーニング、多職種とのカンファレンス等実施のため、管理栄養士を5名増員する。
- 業務委託化
 - ・調理補助、食器下膳業務、洗浄業務を委託化する。
- 産休代替薬剤師の確保
 - ・患者の待ち時間対策と働きやすい職場を維持するために、産休代替薬剤師の確保を行う。
- 安全な薬物治療が行える体制整備
 - ・非薬剤師でも可能な業務をSPDへ移行することで、薬剤師病棟業務の時間を確保し、安全な薬物治療が行える体制を整備する。
- 医師事務作業補助者の増員
 - ・医師の負担軽減のため、医師事務作業補助者を14名増員する。
- 医師対応の勤怠システム導入
 - ・医師対応の勤怠システムを導入し、「診療に従事する勤務医の時間外労働上限規制」に求められる取り組みを行う。
- 診療活性化対策
- 周術期管理の質の向上
 - ・周術期管理の質を高めるため、麻酔管理、ICU管理が可能な外部委託医の確保、周術期医療参加へのインセンティブ付与を行う。
- 診療看護師手当の増額
 - ・診療看護師手当の増額により、年間手術件数の増加を図る。
- 広報活動
 - ・新たに就任した教授の紹介動画やパンフレットを作成し、地域医療機関や患者へ広く広報することにより、患者数の増加を図る。
- 病院長インセンティブの支給
 - ・病院長が入院外来診療報酬請求額の前年度対比を評価指標とし、各種項目を裁量評価することで、成果を挙げた診療科等に病院長インセンティブを支給し、診療の一層の活性化を図る。
- 経過観察入院棟（仮称）及び救急管理棟（仮称）の連携、改修
 - ・中央棟1階の高度救命救急センターバックヤードにおいて、新たに経過観察入院病棟（仮称）を整備する。これに伴い、中央棟西側の高度救命救急センター近傍に救急管理棟（仮称）を建設し、バックヤード機能を移転する。
- 化学療法室拡張工事
 - ・化学療法室利用者増加に対応し、患者負担の軽減を図るため、中央棟3階外来化学療法室拡張工事を行う。
- 脳卒中ケアユニット（SCU）の設置
 - ・休床病床の再整備を実施し、脳卒中ケアユニット（SCU）を設置することで病院機能を向上させる。
- リハビリテーション医療の拡充
 - ・リハビリテーションの多様化や潜在的なニーズに対応するため、リハビリテーション医療の拡充を図る。
- 診療用機器の整備
- MRI-US fusion生検法を導入
 - ・前立線がん診断において、MRI-US fusion生検法を導入する。確実に病変部を狙撃生検することで生検陽性率を向上させ、患者負担の軽減を図る。
- ハイブリッドERの整備
 - ・愛知県から重症外傷センターの指定を受け、より効果的に重症外傷に対応できる設備が必要となるため、ハイブリッドERとして整備する。
- 老朽化による機器装置の更新
 - ・一般撮影FPDシステム（4室分）の更新をする。
 - ・ER一般撮影室における、X線一般撮影装置を更新する。
- 病院運営管理の強化
- 先進医療事業
 - ・先進的医療技術の開発、導入、実践の推進を図る。
- 病院システム更新関連
- 抗がん薬調製支援ロボットの導入
 - ・抗がん薬調製件数の増加に対応するため、抗がん薬調製支援ロボットの導入を行う。

- 老朽化による機器装置の更新
 - ・採血・採尿業務支援システム
 - ・機器試薬トータル販売システム機器

■ 継続事業

- 認定看護師教育課程等受講に係る奨学金制度
 - ・キャリアアップを目指す看護師のための奨学金を更に充実させる。
- BCPにおける災害対応事業
 - ・BCPにおける災害対応事業として医療機器、棚の転倒転落防止措置を講じる。
- 病院広報促進事業
 - ・病院広報促進事業として、より一層の広報促進を図り、地域住民や連携機関との繋がりを強化する。

メディカルセンターの医療に関するもの

■ 手術体制支援対策

- 非常勤麻酔医の採用
 - ・全麻件数増加予定のため、非常勤麻酔医の採用を行う。
- 手術室の改修工事
 - ・手術室の改修工事を行い、手術室周辺を明るく安らぎのある内装にし、患者の不安を和らげる。また、空調の改修、無影灯更新、術野カメラの設置や洗浄作業の業務委託など、手術室に関する運用・機器等の整備を行う。

■ 診療活性化対策費

- 「365日二次救急当番に向けて」
 - ・二次救急当番を365日に拡大する上で必要な手当の支給及び、受付事務に関する業務委託の増加に対する経費。
- 教員の増員
 - ・診療活性化を図るため、教員8名を増員する。

■ 診療用機器の整備

- CT Colonography炭酸ガス送気装置の導入
 - ・CT Colonography炭酸ガス送気装置の導入し、患者負担軽減を図る。
- 老朽化による機器装置の更新
 - ・X線TV装置を増設する撮影室に整備し、有効的に設備活用を図る。
- 老朽化による機器装置の更新
 - ・骨塩定量測定装置
 - ・外科用X線透視撮影装置

■ 病院システム更新関連

- 外来患者呼び出しシステム（HOSPISION）更新事業
 - ・情報漏洩防止、患者サービスの向上を図る。

- 院内ネットワークの適正化
 - ・非常時に診療停止等に繋がらないよう、セキュリティレベルの向上を図る。

■ その他

- 駐車場整備
 - ・患者及び職員の増加により駐車場不足が見込まれることから、駐車場を新たに整備する。
- 中央受付の設置
 - ・中央受付の設置を行い、診察から会計までの流れを円滑にすることで患者の負担を軽減する。
- 南館屋上防水工事
 - ・南館の屋上防水工事を実施する。

眼科クリニックMiRAIの医療に関するもの

■ 診療用機器の整備

- 診療、検査体制の更なる強化のため、以下の装置を導入
 - ・パノラミック オフサルモスコープ
 - ・視機能評価機
 - ・IPCコントロール
 - ・ハンドヘルドレフレクトメータ
 - ・マイクロバルスP3
- 広報事業
 - ・大学レベルの高度な治療を行う眼科クリニックとして、紹介元医療機関の開拓及び眼科をお探しの個人への訴求のための各種広告展開を図る。

法人・大学運営に関するもの

■ 創立50周年記念事業

- 愛知医科大学50年誌の作成
 - ・創立50周年記念事業の一環として、愛知医科大学50年誌を作成する。
- 特命教育教授の採用
 - ・令和7年度の看護学部博士課程設置に向けて、特命教育教授1名を採用する。
- 教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業募金
 - ・昨年度に引き続き、記念事業に係る募金を卒業生、在校生父兄、取引業者等に行う。
- 医心館1階多目的ホールの増改築及び2階セミナー室の増設工事
 - ・医心館2階の一画にある名城大学サテライト室を1階の多目的ホールへ移設し、本学学生の利用空間に限定して学習環境の向上を図るとともに、セミナー室4部屋を増設する。

■ 建物修繕

○直流電源装置における部品交換

- ・各棟の電気室に設置されている直流電源装置において、経年劣化している部品を取り替える。

○ライフラインの供給を監視する設備の更新

- ・中央棟の全ての冷暖房設備、換気設備、給排水に至るライフラインの供給を監視する設備の更新を行い、中央監視の安定稼働を図る。

■ その他

○経営改革・イノベーション推進事業

- ・理事長直轄の組織である経営戦略推進本部において、①地域医療連携、②救急体制の改革、③

働き方改革、④財政基盤改革、⑤中期計画・中期目標、⑥本学事業部門の再編、⑦その他に取り組む。

○セキュリティ確保

- ・法人、大学の業務系データに関し、強固なセキュリティを確保するため、バックアップアライアンス製品を導入する。

○オープンキャンパスに伴う装飾物等の一新

- ・来場型のオープンキャンパス実施に際し、本学のブランド力向上、認知度拡大のために装飾物等の一新を図る。

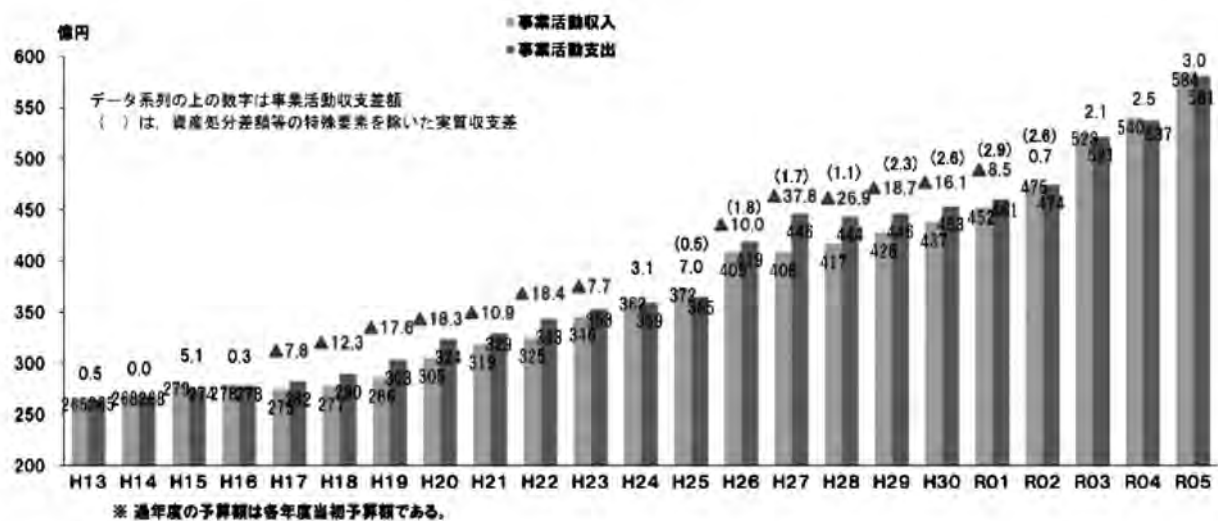
予算規模の推移

令和5年度の予算状況は、

事業活動収入 583億6,601万余円

事業活動支出 580億7,054万余円

となっており、事業活動収支差額は2億9,546万余円の黒字となっています。



事業活動収支予算では、収入58,366百万円（前年度比4.83%増）、支出58,071百万円（前年度比4.86%増）となり、収支差は295百万円の黒字予算となっています。資金収支予算では、学生生徒等納付金収入4,869百万円、寄付金収入630百万円、補助金収入2,110百万円、医療収入48,933百万円など資金収入合計60,463百万円となっています。一方、人件費支出22,389百万円、教育研究費支出29,151百万円、管理経費支出1,154百万円、施設関係支出2,419百万円、設備関係支出2,463百万円、借入金等返済支出1,222百万円など資金支出合計60,432百万円となっています。

資 金 収 支 予 算

令和5年4月1日から

令和6年3月31日まで

(単位：千円)

収入の部			
科 目	本年度予算	前年度(12月補正後)予算	増 減
学生生徒等納付金収入	4,868,650	4,971,310	△ 102,660
手数料収入	167,510	237,435	△ 69,925
寄付金収入	630,350	685,230	△ 54,880
補助金収入	2,110,447	3,520,719	△ 1,410,272
資産売却収入	36,334	0	36,334
付随事業・収益事業収入	1,017,235	1,363,117	△ 345,882
医療収入	48,933,071	43,897,734	5,035,337
受取利息・配当金収入	1,490	1,672	△ 182
雑収入	607,258	969,466	△ 362,208
借入金等収入	150,000	150,000	0
前受金収入	974,651	991,801	△ 17,150
その他の収入	9,613,092	10,892,907	△ 1,279,815
資金収入調整勘定	△ 8,647,210	△ 8,420,663	△ 226,547
前年度繰越支払資金	8,350,733	8,614,612	
収入の部合計	68,813,611	67,875,340	938,271

支出の部			
科 目	本年度予算	前年度(12月補正後)予算	増 減
人件費支出	22,389,427	21,231,496	1,157,931
教育研究経費支出	29,150,559	27,609,218	1,541,341
管理経費支出	1,153,882	1,103,115	50,767
借入金等利息支出	222,725	238,830	△ 16,105
借入金等返済支出	1,221,846	1,341,846	△ 120,000
施設関係支出	2,418,787	1,494,645	924,142
設備関係支出	2,463,232	3,933,174	△ 1,469,942
資産運用支出	150,000	150,000	0
その他の支出	6,493,001	6,849,876	△ 356,875
[予 備 費]	600,000	1,100,000	△ 500,000
資金支出調整勘定	△ 5,831,355	△ 5,552,153	△ 279,202
翌年度繰越支払資金	8,381,507	8,375,293	6,214
支出の部合計	68,813,611	67,875,340	938,271

事業活動収支予算

令和5年4月1日から
令和6年3月31日まで

(単位：千円)

		科 目	本年度予算	前年度(12月補正後)予算	増 減
		事業活動収入の部	学生生徒等納付金	4,868,650	4,971,310
	手数料	167,510	237,435	△ 69,925	
	寄付金	632,350	687,230	△ 54,880	
	経常費等補助金	2,084,289	3,327,406	△ 1,243,117	
	付随事業収入	1,017,235	1,363,117	△ 345,882	
	医療収入	48,933,071	43,897,734	5,035,337	
	雑収入	607,258	969,466	△ 362,208	
	教育活動収入計	58,310,363	55,453,698	2,856,665	
事業活動支出の部	科 目	本年度予算	前年度(12月補正後)予算	増 減	
	人件費	22,688,156	21,196,850	1,491,306	
	教育研究経費	33,344,844	31,595,562	1,749,282	
	管理経費	1,460,798	1,409,493	51,305	
	徴収不能額等	14,771	17,734	△ 2,963	
	教育活動支出計	57,508,569	54,219,639	3,288,930	
教育活動収支差額		801,794	1,234,059	△ 432,265	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	本年度予算	前年度(12月補正後)予算	増 減
		受取利息・配当金	1,490	1,672	△ 182
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	1,490	1,672	△ 182
	事業活動支出の部	科 目	本年度予算	前年度(12月補正後)予算	増 減
		借入金等利息	222,725	238,830	△ 16,105
	その他の教育活動外支出	0	0	0	
	教育活動外支出計	222,725	238,830	△ 16,105	
教育活動外収支差額		△ 221,235	△ 237,158	15,923	
経常収支差額		580,559	996,901	△ 416,342	
特別収支	事業活動収入の部	科 目	本年度予算	前年度(12月補正後)予算	増 減
		資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	54,158	221,313	△ 167,155
		特別収入計	54,158	221,313	△ 167,155
	事業活動支出の部	科 目	本年度予算	前年度(12月補正後)予算	増 減
		資産処分差額	39,249	20,000	19,249
	その他の特別支出	0	0	0	
	特別支出計	39,249	20,000	19,249	
特別収支差額		14,909	201,313	△ 186,404	
〔予備費〕		300,000	900,000	△ 600,000	
基本金組入前当年度収支差額		295,468	298,214	△ 2,746	
基本金組入額合計		△ 6,100,000	△ 5,500,000	△ 600,000	
当年度収支差額		△ 5,804,532	△ 5,201,786	△ 602,746	
前年度繰越収支差額		△ 69,648,730	△ 63,814,040	△ 5,834,690	
翌年度繰越収支差額		△ 75,453,262	△ 69,015,826	△ 6,437,436	
(参考)					
事業活動収入計		58,366,011	55,676,683	2,689,328	
事業活動支出計		58,070,543	55,378,469	2,692,074	

令和5年度職員新任式挙行

令和5年4月3日（月）大学本館たちばなホールにおいて、令和5年度職員新任式が挙行されました。

式では、祖父江元 理事長から、「イノベーション・キャリアパス・連携という三つのキーワードが重要になります。新しく若い皆さまを職員としてお迎えすることを大変嬉しく思います。是非頑張っていたきたいです。」とのあいさつがありました。

なお、今年度の参加者は209名で、内看護職員150名、医療職員44名、事務職員13名、技能職員2名です。



出席者による記念撮影

名誉教授称号授与式挙行

令和5年3月31日付けをもって退職された兼本浩祐教授（精神科学講座）、米田政志教授（内科学講座(肝胆膵内科)）、石橋宏之教授（外科学講座(血管外科)）、三嶋秀行教授（臨床腫瘍センター）、菊地正悟教授（公衆衛生学講座）、岡田尚志郎教授（薬理学講座）、杉本郁夫教授（医療安全管理室）、高橋佳子教授（成人看護学）、佐藤ゆか教授（感染看護学）に愛知医科大学名誉教授の称号が授与され、令和5年4月10日（月）正午から大学本館役員会議室1において授与式が行われました。

授与式には、祖父江元 理事長・学長を始め、笠井謙次副学長(医学教育担当)、島田孝一法人本部長、羽根田雅巳事務局長が出席し、祖父江理事長から称



出席者による記念撮影

号記が授与され、記念撮影が行われました。

記念撮影後に予定していた、昼食を交えた懇親会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となり、授与式は終了しました。

役員・評議員の異動

【評議員】

退任 高橋 佳子（令和5年3月31日付）

就任 泉 雅之（任期：令和5年4月1日～令和7年1月27日）

新型コロナウイルスワクチンの大規模集団接種運営協力 愛知県知事から感謝状贈呈

令和5年4月25日（火）に愛知県庁本庁舎において、「新型コロナウイルスワクチン大規模集団接種関係者への感謝状贈呈式」が開催され、本学メディカルセンターの羽生田正行病院長が愛知県の^{大村}秀章知事から感謝状を贈呈されました。【写真】

今回は、令和4年6月の4回目接種開始以降に会場運営に協力した関係団体や企業が贈呈対象であり、メディカルセンターとしては2回目の感謝状授与となりました。贈呈式では、大村知事から「大規模接種が、大変意義ある取り組みになったことは、関係者のご尽力の賜物である。」とのお礼の言葉が述べられました。

メディカルセンターでは、愛知県からの協力依頼を受け、令和3年7月3日（土）から大規模集団接種会場を運営し、令和5年3月26日（日）をもってその役割を終えました。集団接種の運用を任せられ



た医療機関として、最後まで大きな事故なく責務を果たすことができたのは、メディカルセンター職員及び本院からの医師派遣等における皆さまのご理解ご協力の賜物だと感謝しております。今後もノバボックス接種センターの継続開設等、引き続き、地域のニーズや変革に対して柔軟に対応して参ります。

木下 登評議員 ス페인王国の文化勲章 「賢王アルフォンソ十世勲章十字章」受章



本学評議員であり南山大学名誉教授の木下 登先生【写真】が、スペイン国王フェリペ六世より同国の文化勲章である「賢王アルフォンソ十世勲章十字章」（Cruz

de de Alfonso X El Sabio）を受章され、令和5年3月2日（木）に駐日スペイン大使館大使公邸（東京都港区）において叙勲伝達式が行われました。

この勲章は、教育、科学、文化、研究において多大な貢献を行ったスペイン人又は外国人に授与される勲章であり、木下先生は、日本イスパニヤ学会長、日本・スペイン・ラテンアメリカ学会長などを歴任され、公益財団法人日本スペイン協会代表理事、日本サラマンカ大学友の会常務理事、スペイン国立インスティトゥト・セルバンテス学術機構CÁTEDRA



スペイン大使からの祝福

名誉顧問の要職に就かれるなど、半世紀にわたり日本とスペインの学術・文化交流促進に尽力され傑出した功績があったことが高く評価されたものです。

この度は栄えあるご受章、誠にありがとうございます。ますますのご健勝と更なるご活躍を心よりお祈り申し上げます。（撮影 森井英二郎氏）

レストラン「オレンジ」リニューアルオープン

学生の福利厚生施設であるレストラン「オレンジ」は、大学本館が平成11年に竣工したのと同時に開業したため、老朽化が進んでいました。このたび、創立50周年記念事業の一環として大学本館1階のレストラン「オレンジ」をより一層魅力ある学生食堂として、且つ、食事以外の時間帯も学生の憩いの場、勉強スペースとして活用できるよう、全面リニューアルが実施されました。

工事は、令和5年1月から着工となり、4月3日にリニューアルオープンをしました。レストランの

営業時間は午前9時から午後3時までとし、営業時間を除く午前7時から午後9時は勉強スペースとして開放しています。

改修に当たっては、学生の意見を取り入れ、電子マネーやQRコード決済に対応した券売機を導入し、更に、Wi-Fi環境の整備や卓上コンセントの設置、セブン-イレブン自動販売機によるレストラン営業時間外の軽食提供の整備が行われました。今後は、より一層利便性が向上し、快適な勉強スペースとしての役割を全うすることが期待されます。



メインホール



リフレッシュコーナー

学校法人愛知医科大学「過半数代表者」選挙実施

本学の過半数代表者に、石居謙太郎さん（病院事務部病院管理課・主査）が立候補し、令和5年3月2日（木）午前9時から3月6日（月）午後4時までの信任投票において、信任1,378票（有権者数2,752名(過半数1,377名)）を獲得し、専任されました。任期は、令和5年4月1日から2年間です。

労働基準法では、36（サブプロク）協定を始めとした労使協定等を締結する場合、労働者の過半数で組織する労働組合がある場合にはその組合、ない場合には、労働者の過半数を代表するものと締結する必

要があると定めています。

過半数代表者の責務は、①労働基準法で定められた書面による協定の締結、②就業規則の作成又は変更についての意見書の提出、③安全衛生委員会委員の推薦その他法令で定められた権限の行使等です。また、労働基準法施行規則には、選出方法として、過半数代表者を選出することを明らかにして実施される投票等の手続きによって選出しなければならないことが定められています。

ホームページを全面リニューアルしました

本学では、ステークホルダーに対して積極的な情報発信を行うとともに、本学ブランドイメージの向上に資するため、約5年の周期でホームページデザインをリニューアルしており、この度、令和5年2月28日（火）に愛知医科大学、愛知医科大学病院、愛知医科大学メディカルセンターのホームページデザインがリニューアルされました。

今回のリニューアルでは、大学・病院とで利用者が異なることから、それぞれのターゲットに合わせたデザインや動きが採用されました。また、スマートフォンからのアクセスが大半であることから、スマートフォン版サイトの見やすさに加え、片手でも操作がしやすいようメニューを画面下部に固定するなど、ユーザビリティにも配慮がされました。

本学では、今後も使いやすく分かりやすいホームページの運営に努め、コンテンツの充実を図ります。



新しくなった大学と病院サイト
(左：PC版、右：スマートフォン版)

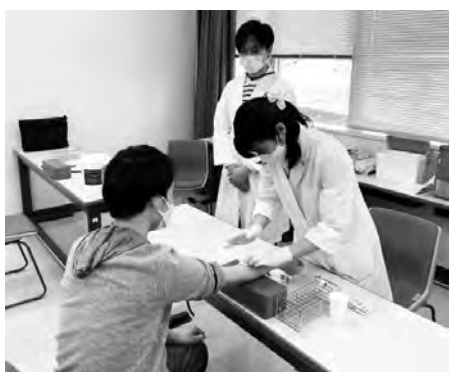
「私立大学研究ブランディング事業」採血事業実施

平成30年度に採択された文部科学省私立大学研究ブランディング事業の一環として、令和5年1月～3月の12日間、大学本館講義室において20歳から60歳までの長久手市民を対象に採血等が実施され、計515名の血液検体及び健康診断情報をいただくことができました。

本事業では、炎症に関する学内研究を推進して健康状態の客観的評価法を確立するとともに、長久手

市対象のコホート研究の基盤整備を行います。本研究成果を基に、病気のかかりやすさの評価や早期発見、更には、この研究成果を地域に還元することを目指します。

今回いただいた貴重な検体と情報を用いて学内研究を展開し、今後、論文発表や学内ホームページへの掲載等を通じて研究成果を発信していく予定です。



血液検体採取の様子



長久手市民への事業内容説明

名古屋市教育委員会共催「市民大学公開講演会」開催

令和5年2月5日（日）午後1時30分から、イーブルなごやホールにおいて、名古屋市教育委員会との共催で市民大学公開講演会が開催されました。

新型コロナウイルス感染症の影響で開催を中止していたことから、今回は3年ぶりの開催となり、定員を会場定員の半数に制限して実施されました。

「愛知医科大学における最先端研究・医療」をテーマに、二部構成で行われ、第一部の講演では、医学教育センターの早稲田勝久教授が、「心臓病をどう治療する？－カテーテル治療の最新事情」と題し、カテーテル手術の写真や動画を多数交えながら最新の治療法について講演されました。

続いて、第二部の講演では、内科学講座（糖尿病内科）の神谷英紀教授が、「糖尿病との上手なつき



早稲田教授



神谷教授

合い方～最新の情報と最先端の治療法から考える～」と題し、糖尿病の最新の治療方法や日常生活で心掛けることなどについて分かりやすく講演されました。

参加者からは「最新治療の講演を聴けて良かった。」「身近な病気として、とても参考になった。」などの感想があり、大変盛況な講座となりました。

認知症サポーター養成講座開催

令和5年2月16日（木）午後2時から午後3時30分まで看護学部棟N102講義室において、長久手市役所長寿課と長久手市社会福祉協議会による認知症サポーター養成講座が開催されました。当日は、看護学部教職員、看護学部学生を対象としており、合わせて22名が参加しました。

厚生労働省は、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対しできる範囲で手助けする「認知症サポーター」を養成し、認知症高齢者等にやさしい地域づくりに取り組むことを目指しています。認知症サポーター養成講座は、全国の地域住民、金融機関やスーパーマーケットの従業員、小・中・高校の生徒など様々な人たちが受講しています。

講座では、認知症予防のためのペアワークが行われ、お互いに褒め合うことで脳に快刺激を与え、認知症の進行を遅らせることを学びました。受講後の



ペアワークの様子

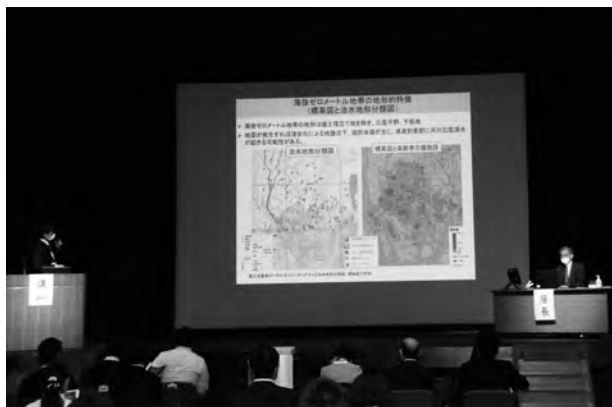
アンケートには、「温かく見守ることだけでも認知症の方の支えになれるということを学んだ。」「笑顔になることが認知症の進行を遅らせることを学んだ。」等の感想がありました。

受講者には、認知症をサポートする意志を示すオレンジカードが配布され、今回の学びは学内や院内だけでなく、地域社会にも活かせる講座となりました。

厚生労働省 令和4年度老人保健健康増進等事業 「海拔ゼロメートル地帯高齢者介護施設BCP研修会」開催

本学の災害医療研究センターが採択されている厚生労働省の令和4年度老人保健健康増進等事業「海拔ゼロメートル地帯における南海トラフ地震時情報、気象災害特別警報発令時の高齢者介護施設の対応に関する調査研究」について、同事業の調査研究のまとめとして、令和5年3月14日（火）午後1時30分から東別院会館東別院ホール（名古屋市中区）において、「海拔ゼロメートル地帯高齢者介護施設BCP研修会」が開催されました。

本研修会では、海拔ゼロメートル地帯に所在する、高齢者介護施設のBCP（業務継続計画）を各施設に普及することを目的としており、当日は、海拔ゼロメートル地帯の高齢者介護施設防災担当者や行政関係の方など61名が参加されました。



講演の様子

南海トラフ地震臨時情報巨大地震警戒発令時の気象情報レベル3での事前避難を組み込んだBCPの提示、令和元年台風19号で被災した長野県の高齢者介護施設の業務継続例の報告、備蓄資機材展示やVR映像による疑似被災体験を実施し、参加者からは「非常に参考になった。」「危機意識が向上しBCPを見直したい。」などの意見があり、発災前からの準備が重要であるという意識付けができ、効果的な研修となりました。

今後も、災害医療研究センターでは、より実効性のあるBCP作成とともに、自助・共助・公助体制を整備するための、広域的な視点からの地域ネットワークの確立を目指して、啓発活動に努めていきます。



VR体験の様子

科学研究費助成事業執行方法等説明会開催

令和5年3月29日（水）午後5時から、大学本館3階302講義室において、科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）の執行方法等の説明会が対面とオンラインシステムを併用して開催され、144名の参加がありました。

本説明会は、科研費研究代表者、研究分担者及び事務職員等を対象に、科研費の制度に関する理解の向上と適正な執行を確保し、不正防止等の徹底を図

ることを目的とするものです。

説明会での内容は、年間のスケジュール、補助金制度と基金制度の相違点、ルール改正、学内執行ルール及び補助事業遂行に当たったの留意点等、最近の研究費不正使用に関する事例紹介等であり、研究者等に対して不正使用防止に向けた注意喚起を図っています。

避難生活支援リーダー／サポーターモデル研修への参画

令和5年2月5日(日), 18日(土), 19日(日)に、避難生活支援リーダー／サポーターモデル研修が愛知県美浜町で開催されました。この研修は、内閣府(防災) 令和4年度「避難生活支援・防災人材育成エコシステムの構築事業」の一貫で、被災者支援の担い手の裾野を広げ、各自治体でのボランティア人材育成プログラム構築の参考になることを目的としています。研修プログラムは、災害支援の専門家や実践家により令和3年度から2年かけて作成されており、避難生活支援に係る災害ボランティア人材育成と発掘方法、スキルアップの研修の実施のあり方、ボランティア人材の円滑なマッチングのための官民連携体制の構築が目指されています。

今回の研修は、レスキューストックヤード(RSY) 代表理事／全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD) 代表理事である栗田暢之氏や、RSY常務理事／JVOAD避難生活改善に関する専門委員会委員の浦野愛氏らにより全体の講義とワークショップのマネジメントが行われ、サポートメンバーとして本学地域・在宅看護学の佐々木裕子准教授、看護部の高橋知子主任(感染症看護専門看護師)、ファシリテーターとして臨床実践看護学の黒澤昌洋准教授、公衆衛生看護学の二村純子講師が、本研修の講師やRSYボランティアとともに参加しました。

研修の内容は、1日目が「避難生活支援リーダー／サポーター」の役割、心構え、被災者理解の基礎講座と被災者理解のワークショップ、2日目が避難所の全体像の理解に対する基礎講座と避難所の課題と生活環境の整備に関するワークショップ、3日目が対人コミュニケーションと連携協働についての基礎講座とワークショップでした。3日間とも講義で学び、その内容をワークショップで実施し、実施内容を振り返り、次のステップに進むという方法でした。

ワークショップの具体的な内容は、①避難生活における改善が必要な事例や場面設定を行い、②サ



栗田氏及び浦野氏を含め、参加者による記念撮影

ポートメンバーやファシリテーターが事例や場面の被災者役を演じ、③参加者がグループで具体的なコミュニケーションの図り方を導き出すこと、必要な物資を用いて避難生活環境を改善すること、連携・協働相手を検討し、その具体的な役割分担や課題を導き出すことに取り組むものでした。この内容もタイミングも順序性も、とてもよく練り上げられていると実感し、学びを深めながら参加することができました。詳細なプログラム内容は内閣府防災情報ページURL (https://www.bousai.go.jp/kaigirep/kentokai/eco_system/index.html) からご参照ください。

本学参加者を代表して佐々木准教授から、「私達は本研修に参加し、研修内容や講師・サポートメンバー・ファシリテーターのコメントから多くを学ばせていただきました。中でも住民の方が『被災者に真に寄り添うとは、どのように関わることなのか』と熱心にディスカッションし、具体的な行動を検討される積極的な姿勢や、豊かなアイデアや機転の良さ、講師を刺激する多くの質問からも深く学ばせていただきました。このような貴重な経験をさせていただいた関係者の皆さまに感謝するとともに、この研修が意図する皆の力で皆の命を守る災害支援・減災活動が全国で広がることを願い、今回の経験を本学や身近な場で活かす活動に微力ながら取り組んでいきたいと思いました。」とのコメントをいただきました。

近視進行抑制寄附講座開講記念式開催

愛知医科大学と株式会社メニコンは、愛知医科大学眼科クリニックMiRAIに産学連携寄附講座として令和4年4月に「近視進行抑制寄附講座」を開講しました。このたび、講座開講1周年を記念し、令和5年4月11日（火）午後2時から眼科クリニックMiRAI 2階特設会場において開講記念式が開催され、当日は、来賓として株式会社メニコンの田中英成代表執行役会長、川浦康嗣代表執行役社長を始め総勢30名を超える方々にご列席いただきました。

式では、祖父江元 理事長からのごあいさつ及び株式会社メニコンの田中会長への感謝状授与があり、次いで、田中会長からのごあいさつ後に近視進行抑制寄附講座に関する今後の展望についての発表が行われました。発表では、近視進行抑制寄附講座を国際的な近視研究の拠点とし、近視診療を担う人材の育成を目指すことについて共有しました。また、今回の記念式では「近視進行抑制」に対する世間からの注目度の高さもあり、各報道機関（中日新聞・CBCテレビ）からの取材を受けました。



感謝状授与の様子



出席者による記念撮影

情報セキュリティ講演会開催

総合学術情報センター（情報基盤部門）では、令和5年3月2日（木）午後5時から、大学本館5階マルチメディア教室において、情報セキュリティに関する意識向上・啓発活動の一環として、全教職員及び学生を対象に情報セキュリティ講演会（SD研修）が開催されました。今年度は、現地及びZoomによるオンラインでのハイブリッド形式で開催され、86名の参加がありました。

講演会では、グローバルビジネスソリューションズ株式会社サイバープロセスマインド株式会社代表取締役の白岡健氏を講師に迎え、「サイバー攻撃の

実態と対策」と題し、最新の情報セキュリティ動向について、事例等を交えてご講演いただきました。

受講後のアンケートでは、ウイルス付きのメールについてや、オンライン会議についての質問があり、出席者は情報通信サービスの変化によって重要性が高まっている今後の情報セキュリティの在り方について、熱心に聞き入っていました。

本学では、引き続き情報基盤の整備を実施するとともに、情報漏洩が発生しないよう、教職員及び学生への意識向上、啓発活動に努め、情報セキュリティ対策に一層積極的に取り組んで参ります。

主な役職者の改選

○ 大学

【副学長（診療担当）】



道勇 学

(内科学講座(神経内科)・教授)

この度、副学長（診療担当）二期目を拝命致しました。今期は休病床再稼働、救急新体制確立、Stroke Care Unit開設、リハ体制充実等、大幅な診療体制拡大を推進致します。また、来年度から働き方改革が本格始動し、新たな愛知医科大学病院に進化するEraとなります。一層身を引き締め邁進する所存です。宜しくお願い申し上げます。

(再任,任期:R 5.4.1～R 7.3.31)

【副学長（特命担当）】



春日井 邦夫

(内科学講座(消化管内科)・教授)

引き続き、副学長を拝命致しました。ダイバーシティ推進委員会を更に活性化させ、全ての職員が能力と個性を十分発揮できる環境作りをして参ります。また、教員評価や昨年改修を実施しましたホームページの継続的な改善にも取り組んで参ります。宜しくお願い致します。

(再任,任期:R 5.4.1～R 6.3.31)

【副学長（特命担当）】



佐藤 元彦

(生理学講座・教授)

引き続き、公的研究費管理・研究不正防止等担当副学長（特命担当）を拝命しました。昨年度より、研究管理体制を現在の規制に合わせたものに再編することを始めております。皆さまのご意見・ご協力のもと進めて参りたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

(再任,任期:R 5.4.1～R 6.3.31)

【研究創出支援センター長】



武内 恒成

(生物学・教授)

引き続き、研究創出支援センター長を拝命致しました。これまでにバイオバンクの整備充実と科研費等の外部資金調達を含めた研究支援を進めて参りました。今後は、大きく変動している国内外の研究環境に対応できるURAの体制強化などにも注力し、最先端の情報を取り入れながら、学内の研究力の質的向上のため貢献できるよう取り組んで参ります。

(再任,任期:R 5.4.1～R 7.3.31)

【国際交流センター長】



渡辺 秀人

(分子医学研究所・教授)

本学の国際交流活動を統括する国際交流センターは、学生・教職員の国際交流、学生・教職員向けの語学力向上、異文化理解等を目的としたセミナーの開催、外国人研究者の支援等の事業を行っています。どうぞ宜しくお願い致します。

(再任,任期:R 5.4.1～R 6.3.31)

○ 医学部

【メディカルセンター病院長】



羽生田 正行

(メディカルセンター・特命教授)

今期、引き続き愛知医科大学メディカルセンター病院長を拝命しました。センターは承継から2年間「融和の年」、「整備の年」として歩んできました。今後は、病院機能や経営面で「飛躍の年」とすべく、努力を重ねていきます。今後とも皆さまのご支援宜しくお願い申し上げます。

(再任,任期:R 5.4.1～R 7.3.31)

【産業保健科学センター長】



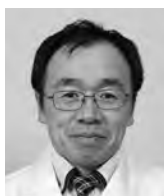
鈴木 孝太

(衛生学講座・教授)

引き続き、産業保健科学センター長を拝命致しました。センターは、今年30周年を迎えます。これからも、社会の変化とともに移り変わる多様な労働状況を客観的に把握し、科学的なエビデンスを基に、働く人々の健康増進、疾病予防を推進し、社会に貢献していきます。

(再任, 任期: R 5 . 4 . 1 ~ R 7 . 3 . 31)

【運動療育センター長】



牛田 享宏

(疼痛医学講座・教授)

患者さんだけでなく、健常者の方においても活動性の低下から運動器の障害やメタボリック症候群になる方が増えてきています。センターでは、それぞれの方の状態に応じた適切な運動処方を行い、QOLの向上でもって皆さまに役立てていきたいと存じます。

(再任, 任期: R 5 . 4 . 1 ~ R 7 . 3 . 31)

【薬毒物分析センター長】



妹尾 洋

(法医学講座・教授)

中毒事例に対応できるよう、高度救命救急センターとの連携を密に取りながら取り組んでいきたいと思えます。

(再任, 任期: R 5 . 4 . 1 ~ R 7 . 3 . 31)

【医学教育センター長】



早稲田 勝久

(医学教育センター・教授)

COVID-19感染症の影響で様々な制限されてきた教育活動も徐々に解消され、本年度から全員登校の下、講義が再開されました。コロナ禍で経験したことを活かしながら、With

コロナの新たな教育体制を構築していきたいと思います。今年度以降、医学教育モデルコアカリキュラムの改訂や共用試験の公的化への対応が求められています。皆さまの協力のもと、社会のニーズに応えられる良き医療人を育成したいと思いますので、宜しくお願いします。

(再任, 任期: R 5 . 4 . 1 ~ R 7 . 3 . 31)

【シミュレーションセンター長】



早稲田 勝久

(医学教育センター・教授)

引き続きシミュレーションセンター長を拝命致しました。共用試験の公的化に向けて、様々なシミュレーターを準備・更新することができました。今後も施設・研修内容の整備と充実に努めていきたいと思えます。今年度からシミュレーションセンターの使用制限もほぼ解消され、多くの実習・演習などが予定されています。医学部や看護学部の卒前教育のみならず、病院の医療スタッフや学外の医療関係者の教育にも貢献できるよう活動していきます。

(再任, 任期: R 5 . 4 . 1 ~ R 7 . 3 . 31)

○ 看護学部

【看護実践研究センター長】



坂本 真理子

(地域・在宅看護学・教授)

看護実践研究センターは設置から15年経過し、キャリア支援部門による各種セミナーや地域連携支援部門による地域での活動も定着し、多くの皆さまにご参加いただいております。今後も、社会のニーズに看護の視点で貢献できるよう、努力していきたいと考えております。

(新任, 任期: R 5 . 4 . 1 ~ R 6 . 3 . 31)

教授就任インタビュー



災害医療研究センター・教授

つだ まさのぶ
津田 雅庸

— 教授就任に当たっての 抱負を聞かせてください。—

平成27年に救命救急科に准教授として赴任後、令和2年に災害医療研究センターのセンター長を拝命し、このたび同センターの教授を拝命致しました。

災害医療研究センターは、災害医療の教育・研究をより積極的に進め、南海トラフ地震における犠牲者軽減を始め、各種災害における犠牲者を軽減し、災害医療の発展に寄与することを目的として、平成26年に設立されました。医学部において、災害医療に特化した部署は全国的に数ヶ所あるのみです。本センターは、中部地方における災害医療の中心として活動できるように、しっかり取り組んで参ります。

災害医療の使命は、平時の災害医療の教育・研究の推進と、実災害時の「負傷者の最大多数に対して最良の結果を生み出す医療 (The best for the greatest number of victims)」の実践と考えております。平時の教育・研究としては、DMAT隊員の養成・教育や医学生・病院職員の皆さんを始め、広く医療従事者を対象とした災害訓練、研修会、講義などを行い、実災害時には、接触的な医療活動に取り組むと考えております。災害現場で行うべき医療は、3Ts (Triage (トリアージ), Treatment (治療), Transport (搬送)) と称されており、救急医療と通じる点も多くあります。また、災害時には外傷治療の技能も求められます。特に、重症外傷については外傷外科手術のできる救命救急医の一人として、活動をしっかりと行いたいと考えております。

— 現在の研究分野に進まれた きっかけを教えてください。—

私は、大学在学中に阪神・淡路大震災に遭遇しました。このとき、多くの人命が亡くなっていったのを目の当たりにし、救命処置に携わる救命救急医になることを決心し、高度救命救急センター・救急医学科で医師として研修を開始致しました。集中治療、外傷、外科治療などの研鑽を行い、研究活動も開始しました。

ここで、私の一つの転機となったのが、国際救急医療チーム (JMTDR) で派遣されたスマトラ島沖地震でした。十分な医療体制の整っていない地域で、多数の患者を救命するための災害医療の重要性を認識しました。その後、本学に赴任し、災害医療へ更に注力できる環境があったこともあり、災害医療の道へ進むこととなりました。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

災害医療は、学生の皆さんに少し馴染みの薄い分野であるかもしれません。しかし、皆さんが医師や看護師となってから、必ず大きな災害に遭遇することとなります。ここでは、医療従事者として災害対応を行う使命があります。どのような分野で活動していても、必ず災害に対応する能力と技術が必要となります。災害医療は決して特殊な分野ではありません。一医療者として幅広い知識と技術を習得できるよう、しっかり学習をしてください。



オフショット

アメリカ留学時に訪問した
Lassen Volcanic National Park



心理学・教授

みやもと あつし
宮本 淳

— 教授就任に当たっての 抱負を聞かせてください。—

令和5年2月1日付で心理学の教授を拝命致しました。どうぞ宜しくお願い致します。平成13年に本学医学部の心理学講師として赴任し、心理学関連の科目教育及び初年次教育に携わってきました。今後も、心理学に期待されている、医師としてのプロフェッショナルなコミュニケーション能力向上のための教育や共感力の涵養のために尽力致します。

初年次教育において、本学の基礎科学の先生方は、教育面でも指導教員としても、とても面倒見の良い教育を行われていると思います。医学生への橋渡しとして、受動的な「勉強」から能動的な「学び」へのパラダイムシフトや学生生活への適応がスムーズに行えるような支援の充実に努めていきたいです。

研究の抱負としては、「レポート作成過程」、「クラウド」、「協働学習」をKey Wordとした教育実践研究を基礎科学の先生方と共同で継続しています。今後も、工夫と改善に取り組み、医学部初年次教育の発展に貢献していきたいです。臨床心理学に関する研究テーマとしては、健康な自己愛の回復のために共感と自己対象体験に重きを置く、コフォートの自己心理学について強く関心を持って取り組んでいます。兼任している学生相談室での活動にも活かしていきたいと考えています。

— 現在の研究分野に進まれた きっかけを教えてください。—

いつも適切なフィードバックをくださった良い先生との出会いの影響から、国語の教師を目指して名古屋大学の教育学部に入学しました。心理学や臨床心理士の仕事のことなどは全く知らなかったのですが、教育学と心理学の両方を学ぶことができ、発達や成長を支援する心理学に次第に興味を持つようになりました。大学院では発達臨床学を専攻し、臨床心理士を取得して発達障害や親子関係の心理臨床に関わってきました。学生相談室のカウンセリングで多くの学生さんの心の回復や成長していく姿を目の当たりにし、その変容プロセスを言語化することで、今後の学生支援に繋がりたいという思いから精神分析的自己心理学や間主観性理論に基づく心理療法について研鑽を積むことにしました。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

困った時に適切な他者を見つけて頼ることは、「成熟した依存」と言って大事な力だと思います。相談することがもたらすものは、問題解決や心の回復だけではありません。適切な他者からしっかりと話を聴いてもらうことや、どうしたらいいか親身になって考えてもらう体験は、将来、皆さんが誰かの心に力を与えることに繋がるはずです。学生生活でたくさんの人柄に触れ、信頼できる仲間や先生方に自分の感じたことを言葉にすること、相談できる力も高めていって欲しいと思います。



悩みの解決や自分の成長のために
どうぞ気軽に学生相談室を活用して下さい



成人看護学・教授

たにぐち ちえ
谷口 千枝

— 教授就任に当たっての
抱負を聞かせてください。—

令和5年2月1日から、看護学部成人看護学の教授を拝命致しました谷口千枝です。どうぞ宜しくお願い致します。

成人看護学は、治療回復過程（急性期看護）と療養生活支援（慢性期看護）の二つの専門性を併せ持った大きな領域です。大所帯ですが、一人ひとりが意見を言いやすい自由な領域を目指しています。在院日数の減少や働き盛りの方の療養生活等、成人看護学では現在の社会的課題を教育の中に備えています。社会の動きを敏感に捉え、教育方針に取り入れる柔軟性をもち続けたいと思っています。

私自身の話となりますが、私は大変運の良い人間です。これまで、様々な場面で様々な方々に助けられ、ここまで来ることができました。惜しみなく研究を教えてくださる先生に巡り合い、その結果について前向きにディスカッションし合うことができる仲間にも巡り合えました。私もいつか、一緒に働いて運が良かったと周りの方に言っていただけるように、今後の教育、研究、学部運営に尽力して参りたいと思っています。

— 現在の研究分野に進まれた
きっかけを教えてください。—

私は、臨床時代に禁煙外来という特殊な外来で患者さんの禁煙支援をしていました。これまで、患者さん約2,000人の禁煙をお手伝いしています。禁煙外来では、様々な理由付けをして「ああ言えばこう言う」を繰り返す禁煙が困難な患者さんが、ある日突然禁煙してしまうことがありました。このような体験から、人の行動変容の面白さを実感し、行動変容の研究にのめり込むようになりました。なぜ、人は行動を起こすのか、どのように声をかけたら禁煙しようと思うのか、未だに興味は尽きません。成人看護学では、患者さんの行動変容を促すセルフマネジメント支援が教育の中心です。自分の研究分野を教育できる喜びを日々感じております。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

看護学は、医学だけでなく、社会学や人間学、心理学など、様々な要素がたくさん入った学問です。皆さんが、患者さんを多面的に理解するためには、皆さん自身も様々な経験しておくことが重要です。課題に追われる中でも、ぜひ新しい視点を持つことができるような経験を積む努力をしてください。その視点は、アルバイトや一人旅、ボランティアなどで持つことができるのかもしれませんが。学生時代にしかできない経験を、ぜひ大切にしてもらいたいと思います。



頑張ろうと思う瞬間

—退職を迎えて— “長年の勤務お疲れ様でした”

長年にわたり本学に勤務され、本年3月31日をもって定年退職又は期間満了退職された方々から寄せられたメッセージをご紹介します。

なお、定年退職後も再雇用等により本学にご尽力いただける方もみえますので、引き続きのご活躍をご期待致します。



岡田尚志郎 先生
(薬理学講座・教授)

はなをさかせよ よいみをむすべ

平成23年4月1日から12年間、薬理学講座を担当させていただきました。おりしも大学を取り巻く環境は、国立大学法人化による大学改革の嵐の中にあり、2023年問題などの課題が山積していました。教授歴3年で予期せず医学部長に就任したことをきっかけに、いかにすれば愛知医科大学のアイデンティ

ティを確立できるのかを考え、決断と実行してきた4年間の学部長時代でした。当時蒔いた種が一部は実ってきているようにも見えますが、環境の変化のスピードは速く、新たな改革を更に進める必要があるでしょう。

私は30歳で岡山大学医学部附属病院助手に任官して以来35年間、高知大学医学部及び愛知医科大学で大学人として研究と教育に携わることができたこと、最後に愛知医科大学で最終講義をさせていただいたことに心から感謝しています。

愛知医科大学が東海地方のユニークな私立医科大学として発展することを心から願っております。



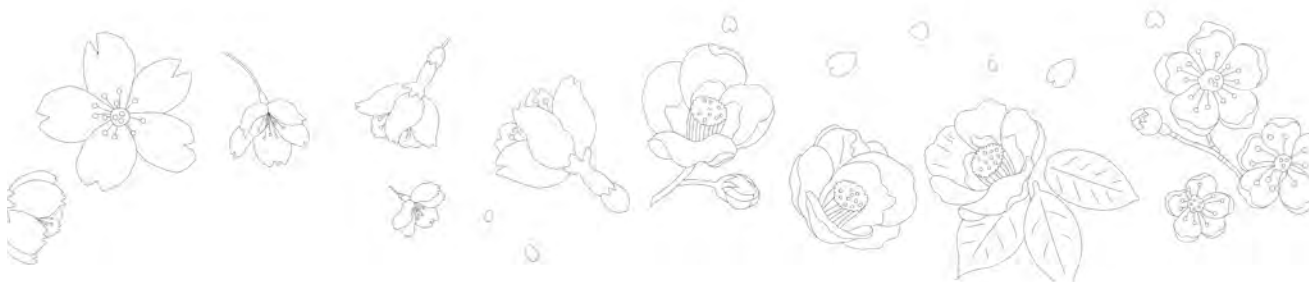
菊地 正悟 先生
(公衆衛生学講座・教授)

23年間ありがとうございました

平成11年12月に着任してから、世紀をまたいでお世話になりました。着任当時はスタッフも少なく、授業をこなすのに苦労しましたが、講座のOBの先生方に助けていただきました。その後、3コマの講義終了後に小テストを行う方式の採用と、実習で疾患の集団発生に対応する方法を学んでもらうための

紙上シミュレーションの導入を行いました。研究では、従来のピロリ菌と胃がんの研究に加え、平成22年頃から膵がん・胆道がんの研究を行ってきました。振り返ると、比較的自由に研究活動をさせていただいたと思います。幸いこの令和3・4年度は講座の教員4人全員が科研費を得ることができ、大変充実した研究活動を行うことができました。

この機会に、これまでお世話になった多くの方々に深謝申し上げます。また、本学が良き医療人育成のための場として貢献し続けることを祈念しております。





米田 政志 先生
(内科学講座(肝胆膵内科)・
教授)

退任に際して

退任に当たりごあいさつさせていただきます。私は平成19年9月に本学に教授として獨協医科大学から着任しました。足かけ16年間にわたって愛知医科大学でお世話になりました。東京以西の地に住むのは生まれて初めてのことで、着任当時は愛知県そのものの地理も、更に旧病院で迷路のような愛知医科大学内で右も左もわからない状況でした。しかし、愛知医科大学の優しいスタッフや医局員のお陰で何とか教授として職を全うすることができました。在職期間中は大学院医学研究科委員会運営委員会委員



兼本 浩祐 先生
(精神科学講座・教授)

退任のごあいさつ

本学には20年以上もお世話になりました。その間の入局者は120名近くになります。臨床心理の先生も50名を超える先生たちが精神神経科で勤務されました。大学という場所は、そこを通過する人たちが少しでも自分がしたいことを見つけるためのきっかけを提供し、一緒に仕事をするを通して将来の仲間づくりに貢献し、何よりも最低限の職業人としての知識と技術を獲得するための場所であることを目指してきましたが、結果として、甚だ主観的な感想ですが、多くの良き人たちと出会い、苦しいこともありましたが、基本的には楽しく過ごせた20年間でした。

大学が高校や中学と大きく違うのは、様々な背景や異なったトレーニングの過程を経た人たちが集まって、多様な課題にチームを組んで取り組むところではないかと思います。専門外の身体科の知識に関しては、最新の知識で訓練を受けた若手の先生に教えてもらい、摂食障害や認知症といった精神医学のサブスペシャリティに関しては、それを専門的に

長、病院栄養部長を務めさせていただき、学問と実臨床で何とか大学のお役に立てたのではないかと考えています。

私の医師としてのモットーは「physician-scientist であれ」であります。医学部で学ぶのは医師国家試験に合格するだけが目標ではなく、医師国家試験に合格するだけならば6年間も勉強をする必要はなく、我々医師に求められるのは臨床での疑問や問題を解決するために研究を行い、その成果を臨床に還元することです。私は学生や医局員に機会がある度にこのことを話してきましたが、それが実を結んだのか医局員はAMED、科研費と多くの大型公的研究費を取得して研究分野で世界のトップを走り続けています。私が退任した後も愛知医科大学の一人ひとりが医師としてのモチベーションを保ち続けて益々発展することを心から祈念しています。

新たに勉強された先生に教えてもらい、自分よりも遙かに読書家の精神医学一本でやってこられた先生には、自分の精神医学の中での立ち位置を教えてもらい、多くの同僚のいる大学という環境は、そういう意味ではとても恵まれた環境であったと思います。

特に、臨床において大学病院の精神神経科は、バックに頼もしい救命救急体制があり、スタッフにも恵まれているので、覚悟を決めれば他で引き受けることができない患者さんたちを引き受けることもできるのだと思うことも少なからずありました。退職に当たって何人かの患者さん・ご家族からは、しみじみとしたお別れの言葉をいただきました。精神科医はキャリア形成の途中で、本当に自分はプロとしての仕事をできているのかを自問自答する時がある職業なのだと思います。それを私自身は幾分なりともできたのかどうかは分かりませんが、少なくとも何人か人の役には立ったように思えたのは幸いです。

最後に、やはり心理の先生たちも含めた医局の人たち、重い患者さんたちをバックで支えてもらった看護師さんたち、ケースワーカーの方々の本学での臨床がつつがなく、無事にこれからも行われることを祈って退職のあいさつにしたいと思います。しばらくは時々大学に来ていますので、何かお役に立てそうなことがあれば、どうぞお気軽にお声掛けください。



石橋 宏之 先生
(外科学講座(血管外科)・教授)

「天命に任せて人事を尽くす」

本学開学50年、医師になって41年、着任して30年、教授になって10年を無事終えることができました。最終講義のプレゼン資料作成のために、本学着任後30年を振り返りました。医学・医療の進歩は凄まじく、外科では嘗て、“Gig surgeon’s big incision (偉大な外科医の手術創は偉大である)”の格言(?)のもと、大きな手術創でアグレッシブな手術をしていましたが、今では、ステントグラフト手術に代表

されるカテーテルによる血管内治療が主流となり、大動脈手術が皮膚切開のない穿刺法で行われる時代になりました。

私は教務部長を3年間勤めたこともあり、学生教育にも大きく関わって来ました。分野別評価受審を契機として世界水準の医学教育に合わせ、診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップ)の導入・充実を行いました。医学教育の進歩を実感するとともに、学生のレベルアップ、国試合格率上昇など身を持って経験することができました。

退職を前に卒業生から国試新卒合格率100%という最高の餞をいただきました。本学が次の50年に向けて、更に発展していくことを祈念しています。



三嶋 秀行 先生
(臨床腫瘍センター・教授)

皆さまへの感謝を込めて

平成24年5月に愛知医科大学病院臨床腫瘍センター教授(特任)として着任し、平成26年12月に同教授に就任しました。様々な人の支援を受けつつ、横断的組織である臨床腫瘍センター運営委員会や緩和ケアセンターの新設に深く関わる機会に恵まれ、平成31年にがん診療連携拠点病院を取得、同年がんゲノム医療センターを設置し、がんゲノム医療連携病院の指

定にも貢献できました。

がん総合診療外来では消化器がんの薬物療法とセカンドオピニオンを含むがんの何でも相談を、ゲノム外来ではがん遺伝子パネル検査を担当しました。腫瘍学、統合講義腫瘍学、臨床遺伝学、臨床薬理学、基礎医学セミナーを担当し、臨床研究支援センター長として生物統計家による統計講義も開始しました。令和元年には副院長兼がんセンター長になり、長年にわたり大学や病院の発展に貢献できたことは、忘れられない思い出です。

皆さま、ありがとうございました。愛知医科大学の更なる発展を期待しています。



高橋 佳子 先生
(成人看護学・教授)

退職のごあいさつ

退職に当たり、ごあいさつをさせていただきます。平成22年9月に愛知医科大学看護学部へ赴任してから、12年を経て退職となりました。長らくの職を全うできたのは、教職員の皆さまと卒業・修了生を含む多くの学生達からのご支援の賜物であり、心から御礼を申し上げます。

12年を振り返ると、その殆どを教務関連の仕事に費やしたように思います。看護教育はかなり保守的です。そうでなければならぬ点もありますが、実際はそうでもないと思えます。当たり前の価値観に疑問を持ち、既存の枠にはまらない看護の在り方を思考する必要があります。今、それができる時代です。

どのような看護であっても、看護職者としてどこで働くとしても、やっていれば「確信」が持てるようになりますし、心は意外と形状記憶性をもって蘇ってきますから、楽観のもとに進んでいってほしいと願っています。

最後に今一度、関係教職員の皆さまと学生達に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。



伊藤 雄二 さん
(中央放射線部・主任)

あっという間の39年間お世話になりました。無事定年の日を迎え感謝しております。色々ありましたが、今はいい思い出です。皆さまの更なるご活躍を応援します。ありがとうございました。



小澤千恵美 さん
(看護部・看護師)

看護師として育ててもらい、40年間勤務できたのも良き仲間にも恵まれたお陰だと思います。関わってくださった皆さま方に深く感謝しつつ、昨年創立50周年を迎えた本学の更なる発展を願っております。



清水 邦男 さん
(メディカルセンター放射線室・室長)

多くの方々に支えていただき、無事定年を迎えることができました。良きスタッフにも恵まれました。心より感謝致します。今後の愛知医科大学の益々の発展を祈念致します。



長谷 雅樹 さん
(総合医学研究機構動物実験部門・総括主任)

多くの方々に支えていただき、無事定年を迎えることができましたこと、大変感謝しております。今後も大学、皆さまの発展をお祈り申し上げます。



福井 雅彦 さん
(哲学・准教授)

私は看護学部と医学部に合わせて23年間奉職致しました。振り返りますと看護学部の創設期に関わったことで困難もありましたが幸せでした。今後は微力ながら応援席から本学にエールを送ります。



古井由美子 さん
(こころのケアセンター・技師長)

振り返るとあっという間であり、患者さん始め、素晴らしい他職種の先生方や、優秀な同僚に出会えて、楽しい35年間であり、様々な方に育ててもらったと感謝しています。皆さまと愛知医科大学の今後の発展を祈念しています。

(五十音順, 希望者のみ掲載)

救急集中治療医学講座設置

教育・研究・診療の更なる発展を期して、令和5年4月1日付けで医学部に「救急集中治療医学講座」が設置されました。初代教授に就任された渡邊栄三教授から、「救命救急科では、学際的な救急集中治療をモットーに『Academic Critical Care』を実践しています。本院が愛知県第1号、国内8番目に高度救命救急センターの指定を受けたのは平成8年です。その後、救命救急科が平成13年6月に設置され、翌平成14年に愛知県ドクターヘリ基地局の指定を受けました。そして、ER (Emergency Room) から、

或いは病院前から集中治療室 (Emergency ICU : EICU) まで、急性期重症患者へのシームレスな診療を行っております。昨今のCOVID-19パンデミックにより、集中治療への社会的認知度は高まり、日本専門医機構サブスペシャルティ領域に集中治療科が認定されました。今後も、救急集中治療医学講座開設を契機として、地域における救急集中治療・災害医療の充実化、基礎から臨床医学に渡る侵襲学領域の研究・医学教育の更なる発展に貢献する所存です。」とのコメントがありました。

～更なる国際交流の進展と充実を目指して～ タイ国タマサート大学チュラポーン国際医学部との 学術国際交流協定締結

この度、本学医学部はタイ国タマサート大学チュラポーン国際医学部 (Chulabhorn International College of Medicine, Thammasat University) と学術国際交流協定を締結することとなり、令和5年4月7日 (金) に同大学から Professor Adis Tasanarong (Dean), Assistant Professor Peerapong Kitipawong (Vice Dean for Academic Affairs), Associate Professor Jitlada Meephansan (Chair, Division of Dermatology), Associate Professor Napamane Kornthong (Assistant to Dean for Administration) を始め11名が来学し、調印式が執り行われました。式典では、両大学医学部長のあいさつが行われ、協定内容



表敬訪問時の記念撮影

の確認・承認後には両大学医学部長によって締結書に署名がなされました。

また、学長及び医学部長への表敬訪問や国際交流センター長を始めとする関係教員との昼食懇談会では、積極的にコミュニケーションを図ることができ、今後の相互の親睦と発展を確信できる有益な時間を過ごすことができました。

同大学とは学生等の派遣や受入れを行い、相手校において最大4週間の臨床実習を行う予定です。今後は、国際交流事業をより充実させることで、本学の教員及び学生が多様な異文化に触れる機会を拡大する取り組みを積極的に行います。



調印式での記念撮影
(両大学医学部長による協定締結)

新入生ガイダンス実施

令和5年度入学生を対象としたガイダンスが、医学部・看護学部ともに4月2日（日）から7日（金）にかけて実施されました。

◆ 医学部ガイダンス概要

4月2日（日）
医学部長メッセージ
事務連絡等

4月3日（月）
学生生活について
学生相談室の紹介
医学部のカリキュラムについて
・6年間のカリキュラムについて
・1学年次のカリキュラムについて
・履修上の注意及び試験に関する注意
・単位認定・進級留年及び成績評価（GPA制度）
授業，試験等について
基礎科学ガイダンス
実習衣採寸・注文

4月4日（火）・5日（水）
新入生研修

4月6日（木）
ICTに関するガイダンス
課外活動紹介

4月7日（金）
防災関係ガイダンス
施設紹介
学生生活ガイダンス
ハラスメント防止講演会，防犯講習会，サイバーセキュリティ講習会

◆ 看護学部ガイダンス概要

4月2日（日）
看護学部長メッセージ
事務連絡等

4月3日（月）
教務関係オリエンテーションⅠ～Ⅳ
学生生活関係オリエンテーション
アドバイザー紹介
学生相談室紹介
国際交流紹介
防災関係ガイダンス

4月4日（火）
総合学術情報センター（情報基盤部門）利用説明会
学務情報システム説明
健康管理ガイダンス
同窓会紹介
総合補償制度Willに係る説明
事務手続き案内
書類提出（学納金，奨学金等）
ロッカー案内

4月5日（水）
施設紹介（運動療育センター，愛知医大サービス，図書館）
講義関係案内
教科書販売

4月6日（木）
新入生研修

4月7日（金）
ハラスメント防止講演会，防犯講習会，サイバーセキュリティ講習会

令和5年度医学部新入生研修実施

令和5年4月4日（火）・5日（水）に、令和5年度医学部入学生を対象とした新入生研修が実施されました。本年度はシミュレーションセンターの6階と8階を使用し、感染対策を講じながら全員参加での実施となりました。

1日目、まずは自己紹介を兼ねたグループ作りが行われた後、医学教育センターの早稲田勝久センター長及び鈴木耕次郎教務部長から医学教育センターの紹介、学生生活の心得、本学カリキュラムの紹介がありました。次に、「あなたはなぜ医師を目指すのか」についてグループワークを実施し、学生は作業を通して徐々に打ち解け合い、活発に議論する姿がみられました。

その後、生化学講座の細川好孝教授、生理学講座の佐藤元彦教授、解剖学講座の内藤宗和教授から、「基礎医学の学び方」と題し、先生方のキャリア紹介、基礎医学の面白さなどを講演していただきました。そして、先輩医師からのメッセージとして、血液内科の鈴木文乃助教と血管外科の三岡裕貴講師からは、自身の学生生活を振り返りながら1学年次生に対する激励と温かいメッセージをいただきました。2学年次生（黒田琉成さん、黒田壘さん、萩原琴未さん）と3学年次生（佐原佳音さん、杉本圭生さん、藤田穂菜美さん、村上脩門さん）の先輩からは、学生生活を始めるに当たってアドバイスを貰いました。

また、コロナ禍によるコミュニケーション不足を解消するため、今年度も教員との距離を縮めることを目指し、基礎科学・基礎医学の先生方にご協力いただき、教員と自由に話すことができるセッションを設けまし



グループワークに取り組んだ学生たち

た。学生は教員から直々に勉強の仕方や、どのように大学生活を過ごしてほしいか等、様々なテーマで話すことができたため大盛況でした。

2日目は、「医師になるために何が必要か？」と題したグループディスカッションが行われたほか、本研修の締めくくりとして、KJ法を用いて「どのような6年間にしたいのか」を各グループで議論し、漢字一文字で表してもらいました。学生からは「志・飛・極・合・磨・白・実・夢・成・貫・濃・希」という一文字が発表され、この想いを忘れずに6年間を過ごされることを期待したいと思います。

本研修終了後のアンケートでは、「多くの同級生と知り合い、医学部生としての自覚を持つことができた。」「自分が何を目標に勉強したら良いのかを考えるきっかけになった。」など好印象なものが多く、プログラムにご協力いただいた教職員の皆さまに感謝致します。

令和5年度看護学部新入生研修実施

看護学部では、令和5年4月6日（木）に「社会に求められる看護専門職者に向けて、はじめの1歩を踏み出そう」をテーマとした新入生研修が実施されました。本研修は、新入生が上級生との交流を通して、専門職者としての振る舞いやマナーを知り、大学で主体的に学ぶことへの動機付けができるようになることを目的としています。

午前の部では、少人数グループで学内施設を見学する「キャンパス・オリエンテーリング」が行われました。学内各所に上級生と「ミニゲーム」をする交流ポイントや本学に関する「愛知医科大学クイズ」を回答するチェックポイントが設けられ、新入生も初めは緊張していましたが、時間が経つにつれ笑い声も聞かれ、親睦を深めることができているようでした。

午後の部では、「先輩からのメッセージ」として、2～4学年次生から各自の「体験談」や「アドバイス」を含めたメッセージが送られ、次いで、2学年次生から、「看護学部での学生生活について」の紹



研修後の集合写真

介などがあり、新入生は真剣な眼差しで聞き入っていました。

続いて、株式会社マイナビから講師を招き、「大学生として身につける接遇・マナー」についての講演が行われ、最後に、本研修を振り返り、看護学部生として明日から始めること、心掛けることについて、個人レポートをまとめました。

本研修は、新入生にとって、これからの学生生活を送る上で、非常に有意義な一日になったことと思われる。

令和4年度実験動物慰霊祭挙行

令和4年度医学部実験動物慰霊祭が、令和5年3月1日（水）午後1時から実験動物飼養塔前において厳かに執り行われ、医学の教育・研究の発展のための礎となった諸動物の冥福を祈りました。

慰霊祭では、初めに本学の医学研究のために貢献した動物の諸霊に対し、参加者全員で黙祷が捧げられました。続いて、祖父江元 学長、笠井謙次医学部長、佐藤元彦総合医学研究機構長、松下夏樹動物実験部門長から代表献花が行われ、医学研究の発展のため尊い犠牲となった動物たちの霊に哀悼の意を表し、今後とも動物愛護の精神に基づき、更に実験動物の愛護に努めることを誓いました。

その後、コロナ禍における密を避けるために設け



哀悼の意を表する笠井医学部長

られた自由参列時間において、日頃動物実験や飼育に携わっている教職員一人ひとりから白いカーネーションの花が献花台に捧げられ、諸動物の冥福を祈りました。

ハラスメント防止講演会・防犯講習会及びサイバーセキュリティ講習会開催

新入生ガイダンスとして令和5年4月7日（金）大学本館たちばなホールにおいて、新入生が安心・安全に学生生活を送れるよう、「ハラスメント防止講演会」、「防犯講習会」及び「サイバーセキュリティ講習会」が開催され、医学部及び看護学部の新入生215名が参加しました。【写真】

ハラスメント防止講演会は、公益財団法人21世紀職業財団のハラスメント防止コンサルタントである新美講師から、大学におけるハラスメントの基礎知識や難しさ、被害にあった場合の対処方法などについて具体例を交えながらの説明がありました。

防犯講習会では、愛知警察署警備課の岡島警部、同生活安全課の藤川巡査を講師に迎え、宗教団体に関する注意喚起、薬物に関する講話、防犯に関する講話をテーマごとにご講演いただきました。近年、10代・20代の若年層に乱用傾向が増大している大麻を中心とした薬物や、気付かないうちに巻き込まれがちな犯罪についての注意喚起がありました。

サイバーセキュリティ講習会は、愛知県警察本部か



らサイバー攻撃対策隊の三戸警部補始め5名の方を講師に迎え、情報セキュリティ上の脅威、サイバー攻撃・犯罪の手口、サイバー攻撃・犯罪への対策についての説明及び実際にスマートフォンを用いた乗っ取りについてのデモンストレーションが行われました。学生たちは情報セキュリティについての講習を熱心に聞き入り、講習後には数多くの質問がありました。

春の交通安全講習会開催

令和5年4月25日（火）午後6時から医学部・看護学部の学生を対象に、「春の交通安全講習会」が開催され、両学部合わせて約200名が参加しました。

講師をお願いした、愛知警察署交通課交通総務係の清水警部補から、「愛知県の交通情勢は非常に悪く、ここ数年で交通死亡事故死者数は全国ワースト1を脱却しているが、交通事故で亡くなる方はたくさんいます。皆さんには、他の模範となる運転を行うとともに、『防衛運転（かもしれない運転）』を心掛けていただきたい。」とのお願いがありました。また、本学でも大きな問題となっている駐車違反についても講話いただき、どのような状況で駐車違反となってしまうのかについて説明があり、一人の駐車違反により大学全体のイメージが悪くなってしまうことから、将来医療従事者となる学生たちに対し、交通違反を絶対にしないよう注意喚起がありました。

更に、スマートフォンの普及率が上がるにつれて問題となっている、「ながら運転」によって交通事故に遭い、亡くなられた方のご遺族のお話をいただきました。最後に、横断歩道における運転者及



講習を行う清水警部補

び歩行者に関する交通法令順守の重要性を訴えるDVDを視聴しました。

講習会終了後には、交通安全に対するWebテストを実施し、「友人を待つために車を停めることは、5分以内であっても駐車になる」等の交通規則についての確認が行われました。今後も学生一人ひとりが安全運転への意識を高めることができるよう、啓発活動を続けて参ります。

篤志献体者に文部科学大臣から感謝状贈呈

本学の解剖学教育のために献体いただいた次の方々に対し、文部科学大臣から感謝状が贈呈されました。
なお、感謝状の贈呈は、献体者のご遺族が受領を希望された方です。

浅井 弘治 殿	安藤香代子 殿	家田 榮子 殿	伊東のぶ子 殿	内田 典 殿
江之本好恵 殿	大澤 久江 殿	大竹 杏子 殿	小川 優 殿	長田 明 殿
片岡 卓 殿	勝 幸夫 殿	北川 登 殿	木全あや子 殿	日下 保男 殿
熊崎 喜子 殿	坂下多美男 殿	鈴木 茂生 殿	鈴木 昭真 殿	高木ちえ子 殿
高橋 勝子 殿	武田 幸生 殿	中島 秀夫 殿	仲田 宏 殿	中野 英男 殿
野澤 和子 殿	野沢 稔 殿	羽谷 篤 殿	橋本 信義 殿	長谷川君子 殿
服部 とみ 殿	福安 忠司 殿	前澤 秋男 殿	松本 昭子 殿	森崎 敬玉 殿
山内 克巳 殿	吉田 隆 殿	米井 健俊 殿		(以上 五十音順)

医学教育分野別評価年次報告書作成のためのFD開催

医学部では、令和元年9月に医学教育分野別評価を受審し、令和3年8月に受審後初めての年次報告書を作成して日本医学教育評価機構（JACME）に報告しました。令和4年度には6月にFDが開催され、領域毎に現状を把握し年次報告書の原案が作成されました。令和5年2月9日（木）大学本館たちばなホール及び講義室において、令和4年度2回目の年次報告書に関するFDが開催され、作成した年次報告書の確認、今後の領域毎に必要な情報・活動についての確認が行われました。当日は、笠井謙次医学部長からのあいさつの後、領域毎に8グループに分かれて討議が行われました。領域毎に必要な情報を集めるに当たり、どの部署・委員会に何を依頼すべきかを議論して、次年度の各委員会の活動に取り入れることをリスト化しました。これらのリストを全体討議の後に発表し、全員での共有が図られました。

年次報告書は、毎年提出しますが、その報告書自体はJACMEで評価されることはありません。しかし、2巡目の分野別評価受審の際には、年次報告書の実績を基に記載する必要があります。前回の受審時に「部分的適合」と指摘された部分に関しては、改善点が明らかなため取り組みやすい事項となります。一方で、「適合」となった部分に関して、継続的に改善を示す



グループ討議の様子

ことは、むしろ困難です。先日、開催されたJACMEのシンポジウムでも、初回受審時が「適合」であっても、2巡目に「部分的適合」となることは十分にあり得るとのお話がありました。また、実際に2巡目を受審された大学からも、適合から部分的適合になったという報告が幾つかありました。

本学の2巡目の受審は、令和8年度の前半に予定されています。令和6年度から7年度前半の活動実績が2巡目に記載できる内容となります。もう一度、初めに返り、本学の医学部組織・教育体制を見つめ直し、今後の改善に繋げていくことが求められています。

令和5年度医学部FD開催

令和5年度第1回目の医学部FDは、令和5年4月27日（木）午後5時30分から大学本館303講義室において、東京女子医科大学の三谷昌平先生をお招きし、「低学年教育の改善の試み」と題して講演会が開催されました。対面とWebを併せて121名の参加があり、講演では、東京女子医科大学のカリキュラムの紹介を通して、講義の実施方法、時間割の組み方への取り組み・工夫が紹介されました。入学時から大学で医学を学ぶに当たり、受験勉強と何が違うかを丁寧に説明し、単に知識を詰め込むのではなく、大学における学修形態を身につけることに注力しているとのことでした。また、科目試験には難易度が設定され、各科目の学修目標が到達できているかどうかを判定できる仕組みになっていました。これにより、必然的に講義内容も重要なことが中心になり、学生にとっても学修しやすい環境になっていると感じます。

近年は、医学を学ぶに当たり情報量は年々増える一方、臨床実習の充実・拡充のため、座学の時間は減ってきているという相反する状況になっています。年々増加する情報量に対してはインターネットを活用し、正確な知識を得て活用できる能力が求められています。授業のやり方を根本的に考え直す時期に来ている



三谷先生による講演の様子

のかも知れません。

本学は、第117回医師国家試験において新卒合格率100%を達成することができました。一方で、6学年次までのストレート進級率・合格率は、7割台に留まっています。本日紹介された東京女子医科大学のカリキュラムは、本学より授業コマ数も試験も少ないのですが、6学年次までのストレート進級率は9割を維持しています。本学の今後のカリキュラム改革のヒントになったことと思われます。

今後も様々なテーマでFDを開催する予定のため、皆さまのご参加をお待ちしています。

令和4年度看護学部リーダーシップ研修開催

令和5年1月27日（金）及び3月1日（水）両日午後1時から看護学部棟N201講義室において、令和4年度看護学部リーダーシップ研修が開催されました。これは、教授、准教授及び看護学部事務部長、課長を対象に、組織を担うリーダーに求められる力を育成するきっかけ作りとして開催されたものです。

1月27日には、高橋照子名誉教授を講師にお招きし、「愛知医科大学看護学部のミッション」をテーマとしてご講演いただきました。また、3月1日には、八島妙子名誉教授を講師にお招きし、「看護学部を運営するために必要なリーダーシップとは」をテーマとしてご講演いただきました。看護学部の発展に貢献されてきた両名誉教授から、創設期、発展期に学部運営に携わったそれぞれの経験をご講演いただくことで、学部の歴史を理解し、過去・現在から未来に向け掲げられている看護学部のミッションを共有しました。



高橋名誉教授（左）及び八島名誉教授（右）

どちらの回も、講演後には参加者が幾つかのグループに分かれディスカッションを行い、看護学部の今後目指すべき姿やミッション、学部運営に必要なリーダーシップとは何かということについて、活発に意見交換が行われました。

本研修は、これからの看護学部の発展に向けた研修として、令和5年度も継続して行う予定です。

看護連携型ユニフィケーション推進事業 令和4年度卒業前研修「静脈血採血」実施

令和3年度から開始された看護連携型ユニフィケーション推進事業の一環として、令和4年11月24日（木）午前午後それぞれ3時間、看護学部4学年次生を対象に静脈血採血の卒業前研修（講義・演習）が実施されました。

この卒業前研修は、看護学部・看護部共同（看護学部教員4名、看護部教育委員会5名、臨床指導者17名）で継続教育の充実に焦点を当てた教育計画の一部であり、令和3年度の「経管栄養」に引き続き、令和4年度は学生と臨床側双方からの希望が多かった「静脈血採血」が実施されました。研修では、実際の手順や看護師の臨床判断に着目し、患者さんの観察やリーダー看護師への報告の視点について、より理解が深まるように作成された動画「静脈血採血の流れ（本学バージョン）」が事前課題及び演習の振り返りで使用されました。また、講義では知識の振り返り、実際のインシデント事例の紹介が行われ、演習では臨床指導者によるタイムリーなフィードバックが行われました。



研修の様子

静脈血採血は、就職後すぐに実施する技術であり、学生にとっては準備状況高めるとともに、臨床看護師の考え方を学ぶ機会及び学習の動機づけに繋がりました。一方、臨床看護師にとっては、学生の現状を知り、自己の指導力を向上する機会となりました。

看護学部模擬面接実施

令和5年2月9日（木）、13日（月）及び14日（火）の3日間にわたり、看護学部3学年次生を対象に、就職対策の一環として「模擬面接」が行われ、82名が参加しました。

看護学部の就職支援は、入学時から段階的に行っており、マナー講座、メイク講座、履歴書の書き方講座を経て、就職試験を目前とした3学年次後学期に模擬面接を行います。「模擬面接」当日は、面接官として株式会社マイナビのキャリアサポートご担当者様を招き、本番さながらの個人面接が行われました。面接終了後には、面接官からのフィードバックがあり、それぞれの学生に対して個別指導が行われました。

実施後に行ったアンケートでは、「姿勢から答え方まで丁寧に指導して下さったので、とてもありがたかったです。」「自分の中で理解不足であった



模擬面接の様子

点に対して的確なアドバイスをいただくことができたので、とても参考になりました。」などの意見が寄せられました。

就職試験に臨む学生にとって、十分な心構えと対策を講じるための面接練習となりました。

看護学部体験入学開催

令和5年3月23日（木）午前10時から、看護学部実習室において「看護学部体験入学」が開催されました。本企画は高校生が本学の看護学部における講義を体験することにより、大学で看護学を学ぶことへの関心を深めていただくことを目的として開催しています。

当日は28名の高校生が参加し、感染看護学の青山恵美准教授による体験授業「感染予防に必要な手指衛生」及び体験演習「正しい手洗いをマスターしよう！」が行われました。体験演習では、手洗いチェック用の蛍光塗料とブラックライトを使用して、手洗いができているかを2人1組で評価を行い、正しい手洗い方法を学びました。最後に、看護学部生と一緒にドクターヘリとドクターカーを見学しました。

参加した高校生からは、「手洗いを詳しく知るこ



体験演習を行う高校生たち

とができ、家族にも伝えたいと思いました。」「ドクターヘリやドクターカーを見学した際に、とても丁寧にお話をしてくれて良かった。」などの感想が寄せられ、参加した高校生にとっては、看護学の一端を学ぶ有意義な体験となったことと思います。

令和5年度看護学部臨床教授等の称号授与

令和5年4月11日（火）午前9時から、令和5年度看護学部臨床教授等の称号授与が行われ、本院看護部の対象者（臨床教授4名、臨床准教授6名、臨床講師4名）及び本院NP部の対象者（臨床教授1名、臨床准教授1名）に対し、坂本真理子看護学部長から辞令が交付されました。

この制度は、臨床教育の指導体制の充実を図ることを目的とし、看護学部における臨地実習に協力する医療・保健施設等の看護師、保健師及び助産師に称号を授与しています。

看護学部では、今後も関係部署と連携・協働し、豊かな人間性と確かな看護実践能力を備えた看護職者の育成を進めて参ります。



称号授与された看護部の皆さんとの記念撮影



称号授与されたNP部の皆さんとの記念撮影

定年退職教授最終講義

令和5年3月で定年を迎えられた6名の教授の最終講義が大学本館たちばなホールにおいて行われました。長年にわたり、本学の発展に多大なる貢献をしていただき、また、本学の医学教育に対しご尽力くださいました先生方の最終講義には、学内外から多数の方が聴講に訪れました。ここに、先生方の最終講義の様子についてご紹介致します。

内科学講座（肝胆膵内科）

米田 政志 教授 1月31日（火）

【教育・臨床と研究の狭間に揺れた大学生活】

米田教授は、平成19年9月に本学にご着任以来、消化器内科、肝胆膵内科の臨床指導に加え、医学部学生、研修医に対する教育、大学院生の研究指導を中心に、大変な熱意を持って診療、教育・研究指導に当たってこられました。

最終講義では、先生の生い立ち、幼少期から様々なスポーツに情熱を注がれたお話に始まり、永年にわたって携われてきた、神経ペプチドによる脳肝相関、また、非アルコール性脂肪肝炎（NASH）の臨床研究、ビタミンEによる治療、アンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬による抗肝線維化効果、更にはVibration-controlled transient elastographyを応用したNASHの肝線維化評価法等について詳しくご説明していただきました。

後半には、ご自身が大病を克服した経験を経て、



無事に最終講義の日を迎えられたことを感慨深く語っておられました。

講義の最後には、長い間、支えてくださった医局の先生方・スタッフの皆さまに深く感謝の言葉を述べられ、講義を終えられました。

外科学講座（血管外科）

石橋 宏之 教授 2月10日（金）

【天命に任せて人事を尽くす】

石橋教授は、平成5年4月に本学にご着任以来、外科学講座（血管外科）における臨床指導に加え、医学部学生、研修医に対する教育、大学院生の研究指導など、大変な熱意を持って診療、教育・研究指導に当たってこられました。

最終講義では、専門分野としての血管外科との出会い、留学時代の研究、本学血管外科の源流や基本的理念やライフワークとされてきたステントグラフト手術についても多くの症例を挙げ、詳しくご説明していただきました。また、教務部長在任中には、医学教育改革にご尽力されたこと等を紹介されました。加えて、卒業予定の6学年次生が選んだベストクリクラ賞に2年連続で選出され、通算3度の受賞者となり、「名誉ベストティーチャー」の称号を得たことは、大学教員として、これに勝る榮譽はないと語られました。また、教授就任のあいさつで、「人を残す」ことを目標とすると宣言されましたが、そ



の時の言葉のとおり自分なりに人を残すことができたとも語られました。

講義の最後には、令和5年4月から岡崎の本学メディカルセンターにて、外科の体制基盤づくりのお手伝いをしながら、地域医療に貢献できればとのお考えであることを述べられ、講義を終えられました。

精神科学講座

兼本浩祐 教授 2月13日（月）

【心因と外因を一人の精神科医が考えることの難しさ 愛知医大でみた七千例の新患の中から】

兼本教授は、平成13年9月にご着任以来、医学部学生、研修医に対する教育、大学院生の研究指導を中心に、大変な熱意を持って診療、教育・研究指導に当たってこられました。

本学学生の心のケアにおいては、常に学生に寄り添い、多くの学生を支え、見守っていただきました。

最終講義では、本院で初診した患者さんのこと、心因・内因・外因について、精神科医は了解の限界はどこにあるかを常に考えて患者さんと向き合う職業であること、また、てんかんという器質的な病気と密に関わってきたが故に、身体科的な距離感と精神的な距離感の切り替えが難しかった2症例を提



示し、その具体例を議論されました。

先生の精神科医としての根幹は、これまで出会った患者さんとそのご家族、また、多くの先生方や仲間との出会いによって形作られたことに違いありません。講義の最後には、「この出会いに感謝して講演を終えたい。」と締めくくられました。

臨床腫瘍センター

三嶋秀行 教授 2月28日（火）

【がん診療39年と明日への期待】

三嶋教授は、平成24年5月に本院臨床腫瘍センター教授（特任）として着任し、初代センター部長に就任されました。平成26年には同センター教授に就任され、医学部学生、研修医に対する教育等に大変な熱意を持って診療、教育・研究指導に当たってこられました。

最終講義では、永年にわたって従事された大腸癌診療と大腸癌化学療法に関する臨床研究の国際学会発表と英語論文、大腸外科医の有志で化学療法勉強会をされたことなどについて、詳しくご説明していただきました。

本学では、がん診療連携拠点病院の指定要件体制を構築するために10回以上のPEACE講習に学外（大阪）からファシリテーターを招聘し、緩和ケアセンターの新設、臨床研究支援センターにおける治



験と臨床研究支援、随時開催で何でも気軽に相談できるキャンサーボードの新設等、診療の垣根を超え、様々にサポートされたことなどをご説明していただきました。

講義の最後には、贈る言葉のなかで、「困ったときに一番頼りにされる人を目指してください。」「良い人脈は貴重な永久財産です。そういうものを作っていくてください。」と講義を締めくくられました。

公衆衛生学講座

菊地正悟 教授 3月1日(水)

【ピロリ菌をターゲットにしたこれからの胃がん予防】

菊地教授は、平成11年12月に本学にご着任以来、医学部学生に対する講義・実習、大学院での研究者の育成など、大変な熱意を持って教育・研究指導に当たってこられました。

最終講義では、永年にわたって従事された、*Helicobacter pylori*（ピロリ菌）と胃がんの研究について、ピロリ菌とはどういうものか、海外と日本の違い、ピロリ菌の検査、ピロリ菌と胃がんの関わり、ピロリ菌と胃がんの関係等について、詳しく説明していただきました。

講義の後半には、これからの胃がん対策等について、胃がん検診と並行して実施されているABC分類の課題、わが国からの高病原性ピロリ菌の駆除と感染者・既感染者の胃がん死防止に向けてのお話を



していただきました。また、ピロリ菌の感染歴の有無で、胃がんリスクが大きく異なることを個人個人が理解できるように、学校教育の中で健康教育として実施する必要があると語られました。

講義の最後には、分子疫学研究による胆のうがんの研究を継続していくと語られ、講義を終えられました。

薬理学講座

岡田尚志郎 教授 3月6日(月)

【「Free Fair Open」“自分の人生は自分で切り拓け”】

岡田教授は、平成23年4月に本学にご着任以来、医学部学生に対する講義・実習、大学院での研究者の育成など、大変な熱意を持って教育・研究指導に当たってこられました。一方、平成26年4月から平成30年3月まで医学部長を務められました。

最終講義では、タイトルの由来に始まり、ストレス概説、交感神経系の中枢性活性化機構の薬理学的解析等について、詳しく説明していただきました。

講義の後半には、医学部長在任中に取り組まれた大学運営や教育改革、進級判定の厳格化、学年制導入、CBT判定基準の見直し及び医師国家試験対策強化委員会の発足を柱とする教育改革、更に新カリキュラム、3ポリシー、学是及びコンピテンス・コンピテンシーの策定、医学教育センター・シミュレーションセンターの組織改革により医学教育分野



別評価受審に向けた体制を整えられたことなど、多大なる本学への貢献実績をお話していただきました。

講義の最後には、これからの50年先を担う学生たちに向けて、「はなをさかせよ よいみをむすべ」という言葉を、また、教職員に向けては、「共通のビジョンに向かって、次の時代を切り拓いてほしい。」という言葉が贈られ、講義を締めくくられました。

学術国際交流協定大学への学生留学体験記

本学では、学術国際交流協定大学と学生の交流活動を中心に積極的に活動しています。そのプログラムの一環として、協定大学の臨床実習選択（Elective）コースへ本学医学部学生を派遣しています。

令和4年度は、令和5年2月18日（土）から3月19日（日）まで12名の学生が同コースへ留学しました。この留学を終えた学生から寄せられた体験記をご紹介します。

「コンケン大学（KKU）医学部臨床実習選択コース」

医学部6学年次生 七浦 暖

タイの東北地方にあるコンケン大学で4週間実習を行いました。私は法医学と整形外科を選びました。法医学では毎日法医解剖を見学し、日本では少ないであろう銃殺の症例を見るなど貴重な経験ができました。整形外科では6学年次生と実習を行いました。彼らは朝7時の回診から夕方まで行い、当直が義務で翌日も通常通り実習、休日なしで本当に驚きました。また、英語が非常に堪能で英語力の違いを痛感しました。休日は大学の方が企画したアクティビティへの参加や、バスでラオスに行きました。注文に苦戦して謎の食べ物を食べるなど、毎日新鮮で楽しかったです。タイの何が一番良かっ



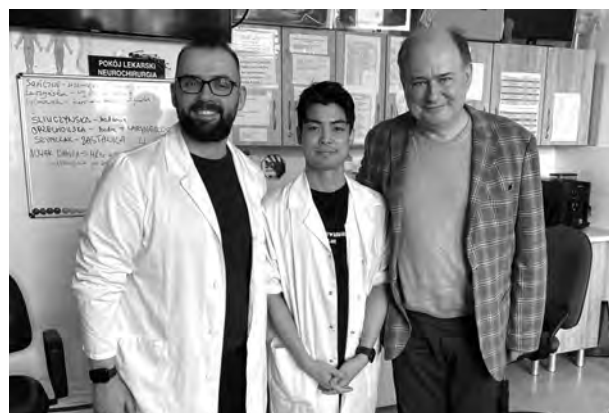
七浦さん（右から4人目）

たかと聞かれたら迷わず、「人！」と答えます。非常に親切で沢山助けられました。衛生や語学など不安はありましたが思い切って選んで良かったです。

「ウッチ医科大学（MUL）医学部臨床実習選択コース」

医学部6学年次生 鰐淵 空

実習先のBarlickiego病院の脳神経外科は、Jaskólski教授を中心に年間2,000例を超える手術件数を誇ります。日々多様な手術症例に溢れる環境の中で、症例毎に執刀医から術式の説明をしていただき、各疾患に対するアプローチの理解が深まる毎日でした。週末は現地の医学生とともにポーランド中を旅行し、計13都市を巡りました。旅先でコロナ前に本学へ留学していた学生達と再会した時は、4年ぶりに海外実習が開始された喜びを改めて実感しました。1か月という限られた時間の中で、期待を遙かに超える経験ができたのは、留学をサポートして



鰐淵さん（中央）

くれた家族、現地で私を受け入れてくださった医師と医学生のおかげです。

「ポズナン医科大学（PUMS） 医学部臨床実習選択コース」

医学部6学年次生 菅村 恵利

この度、ポーランドのポズナン医科大学にて、4週間実習させていただきました。日本とポーランドでの医療制度や医学教育の違いを知ることができ、刺激のある時間を過ごすことができました。特に印象に残ったのは、シミュレーションセンターです。施設内には、救急車や手術室、薬局といった、臨床さながらのトレーニングができる環境が整っており、ポーランドの学生の臨床能力の高さを感じました。それと同時に、自分との差を感じ、「私も多くのことを吸収しなければ」と実習に対するモチベーションが更に高まりました。関わってくださった皆さまへの感謝を忘れずに、今回の海外実習で学んだことや吸収したことを活かせるように過ごして



菅村さん（右）

いきたいと思います。

第31回日本医学会総会2023東京において 医学部学生が発表

令和5年4月21日（金）から23日（日）までの3日間にわたり、第31回日本医学会総会2023が東京において開催され、総会プログラムの一つに、U40委員会企画「この社会で何を考える、医学生たち」という学生参加のセッションがありました。全国の医学部学生に参加が呼び掛けられ、本学からは医学部6学年次生の本村理子さんが参加しました。大学によっては教員から指名されて参加した学生もいる中、本村さんは自ら参加表明し、令和5年1月からWeb会議システムを用いて全国の代表学生と議論を重ねて、当日の発表を迎えました。

本村さんからは、「今回、大学から参加の呼びかけがあった際、全国の医学生と交流できる良い機会だと思い、参加することを決めました。私たちのグループは『キャリアパス』というテーマを選択し、約3か月間、話し合いを重ねました。一部海外での臨床実習期間でしたが、Web会議システムで話し合いに参加することができました。抽象的なテーマで、始めはどのような方向に進むのだろうかと不安に思いました。しかし、抽象的だからこそ1からプレゼンを作り上げることができ、同じグループの他大学メンバー4人と楽しみながら活動することができました。今回活動の一環として、全国の医師・医学生にキャリアに関するアンケート調査を行いました。予想を超える、医師388名、医学生552名から回答をいただきました。沢山の方に



他大学メンバーとの記念撮影
(左から2番目が本村さん)

協力していただいたことに感銘を受けました。また、このアンケートは医学教育センターの早稲田勝久教授のご協力もあり、本学の回答率が他大学に比して高く、『回答したよ！』と連絡をくださる先生や友人もいて、周りの人に恵まれていることを実感しました。ご協力本当にありがとうございました。医学会総会当日は、50名以上の医学部6学年次生が集まり、各大学の教員の前で発表をしました。発言力、プレゼン力、意識の高さなど様々な面で全国の医学生から刺激をもらいました。今回の経験を活かして、学生生活最後の1年を過ごしたいと思います。」との感想がありました。

看護学研究科特定行為研修修了証授与式挙行

令和5年3月4日（土）午前9時から役員会議室1において、令和4年度特定行為研修修了証授与式が挙行されました。

式では、看護学研究科高度実践看護師（診療看護師 [NP]）コース修了者一人ひとりに対し、祖父江元理事長から修了証書が授与されました。

続いて、祖父江理事長から、「特定行為研修修了者は、これからの医療を担っていく可能性が大いにあります。皆さまの益々のご活躍を期待しています。」との祝辞が述べられ式は終了しました。

*高度実践看護師（診療看護師）コース修了後は、特定行為研修修了者として厚生労働省に報告します



授与式後の記念撮影

(38行為21区分)。また、一般社団法人日本NP教育大学院協議会が実施する「NP資格認定試験」の受験資格が得られます。

看護実践研究センター 地域連携・支援部門 令和4年度第3回愛・ながくて夢ネット研修会開催

令和5年3月8日（水）午後2時から看護学部棟N301講義室において、精神看護学の松井陽子助教を講師として「令和4年度第3回愛・ながくて夢ネット研修会」が長久手市多職種連携推進・交流部会と共催で対面及びオンラインで開催されました。

松井助教からは、「高齢者のこころの変化に気づくサイン～うつ・認知症・せん妄の違い～」と題し、高齢者うつ病をテーマに、うつ病の基礎的な知識の説明と抑うつ状態の人への関わり方、うつ病の予防、認知症・せん妄の見分け方について紹介されました。

研修会には、長久手市を始め県内から65名の医療、福祉に関わる専門職の方々に参加していただき、「うつと認知症の違いを見分けるポイントが分かりやすく、参考になった。」「精神科受診へのア



研修会の様子

プローチ方法等を知ることができて、実践に活かしていきたいと思う。」などの感想がありました。

看護実践研究センターでは、今後も、長久手市の保健医療福祉の専門職の皆さまと連携し、地域住民の皆さまのニーズに即した研修会を企画していく予定です。

令和4年度医学研究科・看護学研究科統計セミナー開催

医学研究科及び看護学研究科の合同により、令和4年度は、計10回の統計セミナーが開催されました。

本セミナーは、臨床研究支援センターの大橋渉准教授を講師とし、医学研究科及び看護学研究科学生を中心に病院職員を含めた全教職員を対象として、ZoomによりWeb開催されました。研究における統計学的分析手法の基礎知識を習得する講義・演習となっており、参加者からは、「具体例が多く示してあり、理解しやすかったです。」「シリーズで複数回受講することで、少しずつ理解が深まります。身近な例で分かりやすく、楽しく受講できます。」などの感想がありました。



医学研究科及び看護学研究科では、今後も研究力の向上を図っていきます。令和5年度も開催予定ですので、皆さまのご参加をお待ちしております。令和4年度の開催日及びテーマは、次のとおりです。

No.	日時	テーマ
1	4/27 (水) 18時～19時	統計の基本のキが大事！～正規分布と記述統計量～
2	5/25 (水) 18時～19時	医学研究と統計的検定
3	6/21 (火) 18時～19時	統計的検定の考え方を理解しよう！～群間比較～
4	7/27 (水) 18時～19時	後ろ向き研究の手順
5	9/27 (火) 18時～19時	知っているようで知らない…回帰と相関
6	10/25 (火) 18時～19時	ロジスティック回帰分析
7	11/29 (火) 18時～19時	生存時間解析 (I)
8	1/10 (火) 18時～19時	生存時間解析 (II)
9	2/28 (火) 18時30分～19時30分	看護研究のための多変量解析
10	3/28 (火) 18時～19時	調査票の作成

トルコ・シリア大地震被害に対する本学からの 国際緊急援助隊救助チーム派遣活動報告

救急集中治療医学講座・准教授（特任） 苛原 隆之

令和5年2月6日（月）に発災したトルコ・シリア大地震に対し、国際緊急援助隊（Japan Disaster Relief: JDR）救助チーム医療班として派遣され活動して参りましたので、その概要を報告させていただきます。

JDR救助チームは、警察、消防、海上保安庁の救助隊員を中心に75名体制で、国連傘下の国際搜索救助諮問グループ（International Search and Rescue Advisory Group: INSARAG）から最高レベル（ヘビー級）の認定を受けているチームです。医療班は、メディカルマネージャーを含む医師、看護師5名が帯同し、チーム全隊員の健康管理、要救助者の救出計画への助言や医療処置を主な任務としています。今回の発災は日本時間の午前10時17分でしたが、日中から救急集中治療医学講座内での業務調整を行い、同講座の渡邊栄三教授や医局員の了承をいただいていたため、翌朝にメディカルマネージャーとしての派遣が決定しました。

活動地は、震源地に近く甚大な被害の出ているカフマンマラシュという街で、医療班は全11サイトに及ぶ現場活動の全てに帯同し、到着直後から極寒の中、24時間連続での活動を5日間継続する救助隊員の健康衛生面でのサポートを行いました。私は、メディカルマネージャーとして、主に宿营地（Base of Operation: BoO）の指揮本部にて、診療テントや除染テントの設営、医療状況や要救助者情報の管理、隊員健康管理の統括などを行いました。現場活動では6体のご遺体を搬出し、黙祷後、ご家族のもとにお届けしました。また、JDRに隣接するサイトで、トルコ隊が6歳女児を救出した際は、医療班医師が診察協力するという出来事もありました。JDR救助チームが、生存した要救助者に接触したのは平成15年のアルジェリア派遣以来のことで、実に20年振りのことでした。

今回の派遣は、夜間-4～10℃の極寒環境で、しかも、薪ストーブしかなく休憩テント内で暖を取れないため、カイロや湯たんぽで凌ぐしかないという非常に過酷な環境でしたが、幸い大きな怪我や体



派遣者集合写真
(苛原准教授（特任）右から3番目)



被災地での活動の様子

調不良もなく活動を終えることができました。活動中は、多くの現地の方が胸に手を当てて、「ジャパン、アリガトウ」と言ってくれ、サプライズ的な差し入れ、贈り物などいただいたため大変感激しました。お礼といっは何ですが、BoOのトイレを掃除し、イスタンブール空港では全員で黙祷をしました。帰国後は、トルコ大使館や岸田文雄内閣総理大臣への表敬訪問に同行し、貴重な経験もさせていただきました。

今回の派遣経験を基に今後に向けての提言も様々な挙がっており、これからのJDR救助チームの活動に活かしていきたいと思っています。救急集中治療医学講座の医局員を始め、派遣中に多大なご支援をいただいた方々に心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

医師事務補助体制整備及び医師の働き方改革実施に向けた 学外有識者との懇談会開催

本院では、医師事務補助体制の整備及び医師の働き方改革実施に向け、医療法人社団白梅会理事の小林利彦先生を有識者としてお招きし、懇談会が開催されました。

2月8日（水）及び3月2日（木）には、「医師事務作業補助者の有効活用」をテーマとした医局長・外来医長との懇談会が開催され、これは、令和4年7月に同じテーマで開催された小林先生による講演会に続くものです。今回の懇談会では、すでに医師事務作業補助者が配置されている診療科の医局長・外来医長にお集まりいただき、医師事務補助体制におけるオペレーション、要望する業務、日頃の疑問点等を小林先生にアドバイスしていただきながら情報共有することを目的として開催されました。道勇学病院長、天野哲也副院長、働き方改革プロジェクトチームの伊藤恭彦リーダーを始め30人の医師が出席し、活発なディスカッションが行われました。懇談会後のアンケートでは、「他科での業務内容を聞くことができ良かった。」、「医師事務にもディスカッションに参加して欲しかった。」等のご意見を多数いただきましたので、これらの意見を参考に次回も開催する予定です。

また、2月8日（水）には、大学本館305講義室にて「医師の働き方改革を成功に導くポイントについて」をテーマにした、働き方改革プロジェクトチームとの懇談会が開催されました。本院の自己評価シートを医療機関勤務環境評価センターに提出する前に、小林先生から自己評価シートの記載、指定水準申請等に対するアドバイスをいただきました。



働き方改革プロジェクトチームとの懇談会の様子



医局長・外来医長との懇談会の様子

更に、小林先生からは医師の働き方改革を成功に導くポイントとして、「組織としてシステムで対応していく」、「産休・育休などの取得支援」、「風通しの良い組織づくりを目指して話し合いの場を作っていくことが大事」などのご意見もいただきました。当日は、祖父江元 理事長始め、道勇病院長及び経営幹部が出席し、小林先生との意見交換を行うとともに、令和6年4月から始まる医師の時間外勤務規制に向け、情報共有の良い機会となりました。

コンテナ医療ユニット導入

令和5年3月末に新型コロナウイルス感染症の第9波以降の感染拡大に対応するため、内部に診察機能を備えた可搬式コンテナ医療ユニット【写真】を導入しました。診察室としての名称は、CoMU (Container Medical Unit: コミュー) 1・2に決まり、令和5年4月18日(火)付けで医療法上の施設使用許可を受けました。

コンテナ医療ユニットは、2台ともに高さ2.9メートル、幅2.4メートル、奥行き6メートルのタイヤが付いたトレーラー型でトラックでの牽引が可能です。高度な換気システムを備え、内部は抗ウイルス素材でできており、外来発熱患者や新型コロナウイルス感染症疑い患者用の診察室として使用できます。また、大規模クラスター等が発生した非常時には医療スタッフとともに発生地へ出向き、使用することも想定しています。

その他電子カルテ端末を始め、エコー、ベッドサイドモニタ、AED、処置灯や手洗い装置が整備され、冷暖房完備、内1台には発電機、車椅子・ストレッチャー用リフトも備え付けられています。コンテナ2台を横付けし接続することでスタッフの往来が可能になり、医療スタッフと患者の動線を分ける



構造になっています。

導入に当たっては、愛知県の「救急・周産期・小児医療機関院内感染防止対策事業補助金」の補助を受けており、新型コロナウイルス感染症に対応する中核的な医療機関としての役割をより一層果たすことが期待されます。

診療支援課の設置

令和6年4月より医師の時間外・休日労働上限規制がスタートします。これに伴い医師の年間時間外労働時間の上限が一般労働者と同じ960時間になります。(ただし、申請することによって猶予期間が与えられます。)

このような状況下で、医師の労働時間を短縮するためには、医師だけではなく病院全体で働き方改革を推進する必要があります。具体的には、医師でなくてもできる業務は医師事務作業補助やコメディカルへ、看護師でなくてもできる業務は看護補助者

(昼間・夜間)へタスクシフトし、役割分担を明確にする必要があります。

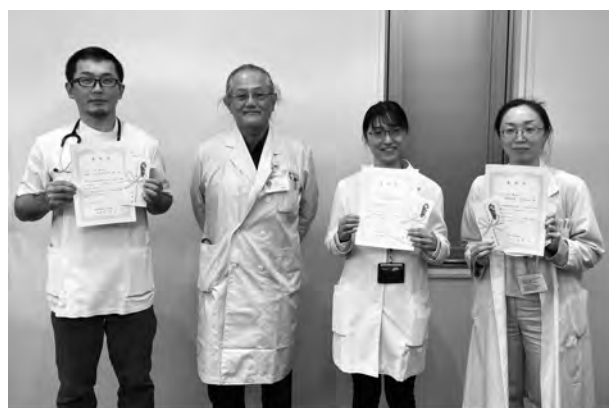
このタスクシフトを積極的に推進することを目的とする事務組織として、令和5年4月1日付けで「診療支援課」が新たに設置されました。従来は医事課、病院管理課で担当していましたが、人員拡大と業務拡大により一つの独立した組織とすることで業務効率を上げ、医師及び看護師の業務負担軽減や労働時間削減、病院経営への貢献を目指していきます。

令和4年度ベストカルテ賞表彰式挙行

令和5年3月7日（火）に病院長室において、ベストカルテ賞の表彰式が行われ、令和4年度のカルテから選出された医師には道勇学病院長から表彰状が手渡されました。ベストカルテ賞は、診療各科で記載されたカルテを「チーム医療」、「医療安全」等の観点から評価し、他の模範となり得るものを選出し、特に優秀であると評価されたカルテを作成した医師を表彰する制度であり、令和2年度から導入されました。

なお、表彰された医師については、研修医を対象としたカルテ記載方法の講習会にて紹介致しました。優れたカルテ記載方法を模範とすることで、より適切なカルテ記載の能力向上への一助となると期待されます。

ベストカルテ賞を受賞した医師は、次のとおりです。



道勇病院長との記念撮影

- 第1位 呼吸器・アレルギー内科
田中博之准教授
- 第2位 放射線医学講座
成田晶子助教
- 第3位 内科学講座（糖尿病内科）
三浦絵美梨助教

卒後臨床研修修了証授与式挙行

令和5年3月13日（月）午後5時30分から大学本館たちばなホールにおいて、卒後臨床研修修了証授与式が挙行されました。

式は、道勇学病院長を始め、笠井謙次医学部長、中野正吾卒後臨床研修センター長及び副センター長等が出席の中、整然と且つ厳かに執り行われました。初めに、中野センター長から医科及び歯科それぞれの代表1名に修了証が手渡され、続いて「臨床研修医を修了した君たちは今後一人前の医師として扱われ、責任を負うこととなる。今まで以上に患者さんファースト、そして、患者さんから学ぶという姿勢を忘れないでほしい。誠実な姿勢は必ず誰かが見ており、評価をしてくれる。」との告辞がありました。その後、各出席者から祝辞がありました。



授与式後の記念撮影

今回修了した研修医30名及び研修歯科医3名のうち、研修医25名及び研修歯科医2名が本院の医師として、専門医や学位取得を目指すことになります。本院での臨床研修の経験を活かし、より一層精進されることが期待されます。

新規採用職員ガイダンス開催

令和5年4月3日(月)に、本院新規採用職員(採用・帰局医師、臨床研修医、看護職員及び医療職員等)計290名を対象として、新規採用職員ガイダンスが開催されました。今回は、看護職員も対象に行うこととしたため、大学本館たちばなホールと講義室合わせて3会場において行い、講義内容は事前に撮影した映像を視聴する形式としました。

このガイダンスは、平成22年度から医療安全を始めとする各部門の院内ルールの周知徹底を目的に開催しています。まず、道勇学病院長から「病院の概

要及び経営方針」の説明や新規採用職員に対するメッセージがあり、その後、各部門の責任者から主要部署の業務内容、医療安全管理、感染予防対策等の説明が行われました。どの講義も日常の診療業務に直ちに反映されるものばかりであり、参加した新規採用者は真剣な表情で受講していました。

今後、年度途中に採用される病院職員に対しても同様のガイダンスを実施し、愛知医科大学病院の職員として必要な基本事項を習得した上で、業務に従事していただきたいと思います。

臨床研修医ガイダンス開催

令和5年4月3日(月)から7日(金)まで、新規採用研修医30名及び研修歯科医2名を対象として、本院における臨床研修に必要な基本的な事項についての「臨床研修医ガイダンス」が開催されました。

ガイダンスは、中野正吾卒後臨床研修センター長と専任教員・高橋美裕希副センター長から、医師としての心構え等についての講話から始まりました。続いて、電子カルテの操作方法講習やBLS(一次救命処置)講習において、質問への応対や助言、手助けなど、常に先輩の医師が後輩の医師に対応する、いわゆる「屋根瓦方式」の研修が行われました。

このガイダンスの内容は、臨床研修医にとって将



講習を受ける新規採用研修医の皆さん

来必ず役立つものと期待されます。

ASGN・クリニカルラダー認定証交付式挙行

令和5年3月2日（木）午前9時30分から看護部長室において、令和4年度ASGN（Aichi Medical University Hospital Super General Nurse）のクリニカルラダー認定証交付式が執り行われました。

ASGNは、看護部キャリア開発システムにおいてジェネラリストレベルV、特定の看護分野に関わらず、どの対象者に対してもその場に応じた知識・技術・能力を発揮できる者としての実践能力を認定された看護師です。今回、看護部の鈴木麻斗香看護師が新たに認定されました。鈴木さんには、井上里恵看護部長から認定証が手渡されるとともに、病院においてASGNが今後ますます活躍されることについて期待の言葉が述べられました。

今後は、臨床教育者（Clinical Educator）という



交付式後の記念撮影
(前列右から井上看護部長及び鈴木看護師)

立場で、部署の指導、医学生や看護学生の臨地実習指導、院内認定制度Educator研修（静脈注射、膀胱留置カテーテル管理、化学療法管理）のインストラクターとしての活動に期待します。

看護師特定行為研修修了証授与式挙行

令和5年3月8日（水）午前10時から大学本館たちばなホールにおいて、看護師特定行為研修修了証授与式が挙行されました。

本院では、特定行為研修指定医療機関として厚生労働省の認可を受け、令和2年度から看護師特定行為研修を開講しています。院外からの受講生を含むクリティカル領域19名、創傷管理領域5名が、講義、演習、OSCE、病院実習を経て、無事に修了することができました。式では、特定行為研修管理委員会委員長の井上里恵看護部長から修了証が手渡され、道勇学病院長から今後の活躍を期待する激励の言葉をいただきました。



授与式後の記念撮影

特定行為研修を修了した看護師は、医師と治療方針の確認を行い、患者の状態を見極め、手順書によって特定行為を実施することができます。患者さんの状態に合わせ、タイムリーに必要な医療行為を行うことで、安心して、満足していただける医療・看護が提供できることを目指していきます。

看護師特定行為研修開講式挙行

令和5年4月6日（木）午後1時30分から大学本館711特別講義室において、看護師特定行為研修の令和5年度開講式が挙行され、25人の受講生が参加しました。

本院は、令和2年度から看護師特定行為研修の指定研修機関として厚生労働省の認可を受け、現在は、クリティカル領域、創傷管理領域、ジェネラル領域の3領域を開講しています。

開講式では、道勇学病院長から激励の言葉をいただき、看護師特定行為研修管理委員会委員長の井上里恵看護部長からは、受講生に対する期待の言葉と



開講式後の記念撮影

特定行為が担う役割について伝えられました。受講生は、引き締まった表情で式に臨み、高度かつ専門的な知識と技術を身につけることに対して、気持ちを新たに取組もうという意気込みが伺えました。

若葉ナース卒業式挙行

令和5年3月8日（水）大学本館たちばなホールにおいて、若葉ナース卒業式が挙行されました。前年度に引き続き、コロナ禍における感染対策として、出席者を若葉ナースと新人教育担当者に限定して行いました。

部署では、卒業を迎えた若葉ナースと指導をした看護師、責任者とともに1年間を振り返り、若葉ナースの成長とともに喜び分かち合いました。今年度も部署から成長のお祝いと労いをメッセージスライドとして映し、厳かに温かい卒業式となりました。

この式は、今年度で13回目となり、入職した新卒看護職員が1年間を振り返るとともに、指導に携わった全ての先輩と互いに成長を祝う会となっています。国家資格を取得し、初めて本院に入職した新卒看護職員「若葉ナース」は、名札に初心者マーク



成長のお祝いと労いのメッセージ

を付けて看護実践に携わっていますが、この卒業式をもって初心者マークから卒業しました。

式では、井上里恵看護部長から新しい名札とともに若葉ナースコース研修を終えて、初めてのクリニカルラダー（JNAラダー統合版）I認定証が手渡され、新人教育担当者には労いの言葉が掛けられました。

メディカルセンター第1回奥殿学区春まつり参画

令和5年3月25日（土）岡崎市立奥殿小学校において、安全・福祉・医療をテーマとした「第1回奥殿学区春まつり」が開催され、本学メディカルセンターは地域からの依頼を受け、このたびブースを出店しました。当日は雨天のため、開催場所が室内（体育館）に変更となり規模が縮小されたにも関わらず、多くの地域住民に参加いただきました。

準備段階からセンター内で実行委員会を立ち上げ、加藤義郎副院長、関泰輔副院長を始め、看護部、リハビリテーション部や事務部といった多職種の職員が当日は参加しました。ブースには、白衣着用体験、反射神経測定（アイタッチ）、老化物質測定、

救護班のコーナーを設置し、多数の方に体験していただきました。

今回、地域での催しに対し、愛知医科大学メディカルセンターとしては初めての参加となり、地域住民の方と触れ合う機会は大変貴重な経験となりました。また、後日地域の反省会に参加した際には、このたびの本センターの参画に関して感謝のお言葉をいただき、今後更なる地域貢献等期待の声が寄せられました。今回の経験を活かし、今後もより一層地域住民との連携を図り、地域に密着した中核病院として認知度向上を図っていきます。



職員集合写真



ブースの様子

メディカルセンター透析センターリニューアル実施

メディカルセンターでは、令和5年4月に透析センターのリニューアルが完了しました。名称も新たに「腎臓病センター」に変更し、血液透析ベッド数が15床から合計20床へ増加しました。

今回のリニューアル工事では、既存センターの運営を停止することなく施工する必要があり、センター長の勝野敬之教授（特任）を中心に何度も打ち合わせを重ねました。今回、感染症対策用の陰圧個室を2床完備し、腎臓病センター専用の受付を設

置、透析部門システムや機器の整備、既存エリアも含めた一体感のあるデザイン等、患者さんや職員がより快適に利用できる施設へと生まれ変わりました。

腎臓病センターでは、血液透析の導入と維持の両方に対応し、外来通院のみならず、リハビリテーションや長期療養（透析通院困難例含む）の入院透析も行っています。更に、腎代替療法（血液透析・腹膜透析・腎移植）の説明、シャント管理（PTA及び手術）、腹膜透析（外来・入院）など腎臓病を

幅広く包括した医療体制を提供しています。

今後も医師，看護師，臨床工学技士，理学療法士，栄養士，薬剤師など多職種で連携し，腎臓病患者さ



リニューアルされた受付

んが安心して治療を受けられるような体制を整備して参ります。



腎臓病センター内の様子

メディカルセンター 二次救急365日体制始動

メディカルセンターでは，令和5年4月1日(土)から二次救急の365日体制が始動しました。令和4年度までは，週2回(月曜日・水曜日)，内科と整形外科で二次救急を行ってきましたが，令和5年度からは外科を加え，平日及び土曜日は午前8時30分から午前0時まで，日曜日及び祝日は午前8時から午前0時まで365日二次救急に対応しています。

「地域多機能病院」として，メディカルセンターでは二次救急も重要な役割と位置付け，軽症・中等症の救急患者の受け入れに対応しています。重症度，緊急性のトリアージは救急隊に任せることとし，岡崎市消防本部と年2回懇談会を開催するなど連携を深める中で，受け入れ可能な症例について認識の共有を図ってきました。また，常勤医師を主に，本院から派遣される外科系当直医師等とともに，不応需率の減少に取り組んでいます。

前年度は，二次救急以外の時間帯に診療放射線技師等がないため検査ができず，内科医や整形外科



医等の対応医師がない時間帯は応需できなかったため，救急車の受け入れを断らざるを得ないケースがしばしばありました。そのような状況の中，救急関連機器を整備し，消防署との連携や医師・看護師等の努力によって救急車の受け入れ件数は大幅に増加しました。岡崎市からのみならず，豊田市からの救急搬送も増加しています。まだ始動したばかりですが，今後も問題点を改善し続けることで，本センターの役割を果たして参ります。

眼科クリニックMiRAI令和4年度防災訓練実施

令和5年3月16日（木）に眼科クリニックMiRAIにおいて、開院後初となる防災訓練が実施されました。今回はクリニック内で火災が発生した場合に内容を絞り、名古屋市東消防署等からアドバイスをいただきながら、1階男子WCで小火が発生したケースについての対応フローを作成し、訓練に臨みました。

当日はフローに則り、各自が実際どのように行動するのかを確かめながら訓練を行った後、委託業者による防火扉や防火シャッターの動作等についての講義が行われました。

訓練後の振り返りでは、一部のフロアで院内放送や警報が聞こえにくかったことや、警報が誤報だった場合の対応についても考えておくべきであるといった意見があり、速やかに改善しました。

なお、本クリニックはマンション（東桜スカイハ



委託業者からの講義を受ける皆さん

イツ）内にあることから、今回の防災訓練にはマンションの住民にも代表で3名の方にご参加いただきました。今後も、火災発生時に職員が適切で円滑な対応ができるよう、より一層実用性のある訓練の実施に努めて参ります。

眼科クリニックMiRAIラジオ市民公開講座開催

令和5年3月12日（日）CBC本館第一スタジオにおいて、ラジオ市民公開講座「今、知っておきたい！目の病気無料講演会」が開催されました。また、2月に放送されたCBCラジオ「多田しげおの朝からP・O・N」では、目の病気について眼科クリニックMiRAIの医師が計4回出演し、本講演会の告知を行いました。

講演会には眼科学講座の瓶井資弘教授と眼科クリニックMiRAIクリニック長の三木篤也教授（特任）が出演し、目の病気の講演及びコメンテーターとのパネルディスカッションが行われました。【写真】当日は69名の方にご参加いただき、大変盛況な講演会となりました。また、講演会の様子は、令和5年3月26日（日）午後5時30分からのCBCラジオ特

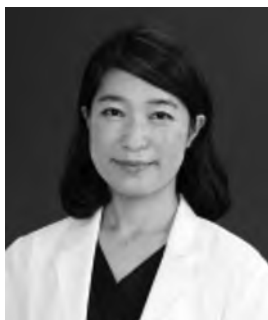


別番組において放送され、CBCラジオサイト内のYouTubeでも配信されました。

眼科クリニックMiRAIでは、今後も地域の方々に向け講演会を開催し、クリニックの知名度・認知度向上を図っていきます。

放送日	テーマ	出演者
2月2日（木）	緑内障について	三木 篤也（眼科クリニックMiRAI・クリニック長）
2月9日（木）	白内障について	石田雄一郎（眼科学講座・助教）
2月16日（木）	眼瞼下垂について	河野伸二郎（眼科・助教）
2月23日（木・祝）	黄斑の病気について	瓶井 資弘（眼科学講座・教授）

**外科学講座（心臓外科）杉山佳代講師 日本胸部外科学会
NEWSLETTER「JUST NOW JATS / CHALLENGE FOR THE FUTURE」に掲載**



2020年度JATS/AATS Foundation Fellowship（心臓血管外科分野）の募集に希望された外科学講座（心臓外科）の杉山佳代講師によるミシガン大学への留学に関する記事が、

日本胸部外科学会NEWSLETTER「JUST NOW JATS/CHALLENGE FOR THE FUTURE」No.70（令和5年3月号）において掲載されました。

杉山講師は、コロナ禍の影響により出航の目途が立たない中、AATS（American Association for Thoracic Surgery）へ受け入れ先の変更を希望の上、令和4年5月1日（日）から3か月間の日程で、ミシガン大学の心臓外科において留学を実施されました。自身が少しでも関わっている分野の手術は、可能な限り多く見学して勉強しようという強い志のもと、僧帽弁形成や大動脈弁置換はもとより、大動脈基部の手術、胸腹部瘤、心臓移植、CTEPHを見

学し、たくさんの手術の記録やスケッチを残されました。また、Hybrid ORでのTAVRやTEVAR、時に小児心臓外科へも赴き、優れた外科医による手術時間や内容に変化がないこと、再手術症例やTAVR後などのハイリスク症例への戦略や工夫など多くのことを学ばれました。

杉山講師からは、「今回の留学をきっかけに、日々の鍛錬を欠かさず、謙虚な心持ちで全ての手術に臨み、多くの手術室スタッフに信頼される外科医になろうと思いを新たにしました。この貴重な経験が今後の私の外科医人生の中で、大きな心の支えになると感じています。今回の留学を通じて、日本の心臓外科医のあり方についても深く考えさせられる機会となりました。このような貴重な機会を与えてくださったJATS、AATSの関係者の皆さまに御礼申し上げます。また、困難な状況で私を快く送り出してくれた医局の皆さま、渡航前の費用を負担していただいた本学、最後に、常に私の健康を気遣ってくれた家族に感謝します。」との感想がありました。

血管外科 有馬 隆紘助教（医員助教） 第31回日本血管外科学会東海・北陸地方会 U-35 Case Report Awardセッション最優秀賞受賞

血管外科の有馬隆紘助教（医員助教）が、令和5年3月18日（土）に金沢商工会議所会館で開催された、第31回日本血管外科学会東海・北陸地方会において、「U-35 Case Report Awardセッション最優秀賞」を受賞しました。

これは、血管外科学会総会でのU-35 Case Report Awardセッションの地方予選として行われた第31回日本血管外科学会東海・北陸地方会での発表演題「エンドテンションと誤認した乳糜瘤の1例」が、令和6年5月に別府ビーコンプラザにて開催される第52回日本血管外科学会学術総会の同名セッションで発表されるものに最も相応しいとして高く評価されたものです。

受賞された有馬助教（医員助教）からは、「この度は名誉ある賞をいただき、身に余る光栄に存じます。

外科学講座（血管外科）の石橋宏之教授を始め、血管外科の先生方のご指導のおかげと大変感謝して



血管病センター外科系診療部長の松本康先生（右）と有馬助教（医員助教）（左）

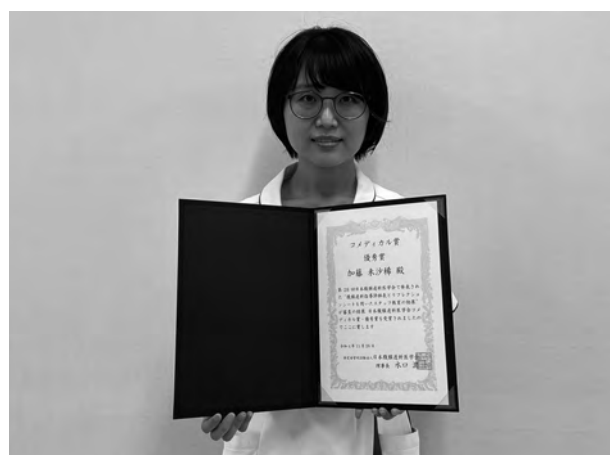
おります。令和6年の血管外科学会総会での発表の機会をいただいたため、より議論を深められるように頑張っていこうと思います。」との感想がありました。

看護部 加藤 未沙稀看護師 日本腹膜透析医学会コメディカル賞・優秀賞受賞

看護部の加藤未沙稀看護師【写真】が、令和4年11月26日（土）及び27日（日）に岡山コンベンションセンターで開催された、第28回日本腹膜透析医学会学術集会・総会において、「日本腹膜透析医学会コメディカル賞・優秀賞」を受賞しました。

「コメディカル賞」は、腹膜透析治療に携わる若手コメディカルスタッフを対象に腹膜透析研究の奨励を目的として設立されたもので、今回同学会の学術総会に応募した演題「腹膜透析指導評価表とリフレクションシートを用いたスタッフ教育の効果」が特に優れているものとして評価されました。更に、「優秀賞」は、演題発表において研究成果を発信することで、腹膜透析療法の実践に大きく寄与するものとして高く評価されたものです。

受賞された加藤看護師からは、「この度は、コメディカル賞・優秀賞に選んでいただき誠に光栄に存



じます。このような賞を受賞できたのは、日々お世話になっている教授や上司、先輩・後輩スタッフのご指導、ご支援のお陰です。厚く感謝申し上げます。今後もスタッフ教育に貢献できるよう精進して参ります。」との感想がありました。

海外研修派遣研修記

本学では、教育、研究活動等の向上に寄与するため、教員の海外研修派遣を実施しています。この度、消化器外科の内野大倫助教が海外研修へ参加されましたので、その研修記をご紹介します。

内野大倫

(消化器外科・助教)

研修課題：炎症性腸疾患外科治療、大腸外科医の教育及びWOCの治療介入の現状

研修先：クリーブランドクリニック（米国・オハイオ州クリーブランド）

研修期間：令和4年4月12日～令和5年3月25日

この度、本学の海外研修派遣制度により、米国オハイオ州にあるクリーブランドクリニックのDept. Colon and Rectal Surgery（大腸外科）でリサーチフェローとして1年間の海外研修を行いました。クリーブランドクリニックは世界の主要都市に数か所存在し、その中心となるのがオハイオ州クリーブランドにある病院です。クリニックの敷地面積は非常に広大で、患者さん及びその家族用のホテルが三つも敷地内にあります。

クリーブランドには三つのメジャースポーツ（NFL, MLB, NBA）があり、住民の地元愛は非常に強い地域です。私はクリニックから車で約20分の地区にアパートを借りていました。その地区は治安と教育の環境が良く、クリニックの日本人も多く居住しています。世界各国から人が集まり、子供たちにも多くの友人ができました。周囲には五大湖の一つであるエリー湖を始め、国立公園などの自然が多く、休日にはフィッシングやサイクリング、トレッキングを楽しんでいました。上司や友人にも非常に恵まれ、祝日には自宅に招待いただき、家族とともに伝統的な料理を楽しみながら、色々な国の文化を体験することができました。

クリーブランドクリニックはIBD（炎症性腸疾患）に関して世界的に有名な病院です。私が取り組んでいた臨床研究のほとんどがIBDに関するものでした。手術手技だけでなく、術後短期合併症から長期予後に関するものまで、様々な切り口から分析をしていました。

潰瘍性大腸炎や家族性ポリポーシスに対して行われる回腸囊肛門吻合術は、永久人工肛門を回避できる反面、合併症が多く、回腸囊救済手術が患者QOLに大きく影響します。その救済手術の初期段階として一時的人工肛門が選択されることがありますが、予定通り救済手術が可能な症例と永久人工肛門となってしまう症例が存在します。一時的人工肛門造設理由や長期予後に関する報告はありません。この研究は消化器病関連で世界的に大きな学会（DDW 2023, Chicago）で口演しました。また、術後合併症関連では他施設からの紹介も多数ありサンプルサイズが非常に大きいです。稀な合併症である



大腸外科のChairmanと2022-2023年リサーチフェロー
(内野助教：最上段右)



上司の家でクリスマスパーティー

回腸囊と尿路系の瘻孔形成に関してや、回腸囊を有する前立腺癌患者さんに対する前立腺摘出術、回腸囊機能不全に対する再手術方法など、症例数があるからこそ検討ができる研究も行い、学会での発表を経験できました。臨床研究だけでなく手術見学では、日本との器具の使い方や各人の役割分担の違いを実際に見ることができました。また、WOC看護師（Wound・Ostomy・Continence）の仕事にも同席させていただき、様々な体型の患者さんや部位に造設された人工肛門や創傷管理に対する工夫も学ぶことができました。

最後に、海外留学の機会を与えていただいた消化器外科医局の先生方、サポートいただいた庶務課始め大学関係の皆さま、留学前に相談をさせていただいた先生方にこの場を借りて感謝申し上げます。そして、留学生活を一緒に楽しみ支えてくれた家族に感謝します。

事務職員資格取得

学是「具眼考究」を踏まえたSD（スタッフ・ディベロップメント）実施に関する基本方針のもと、事務部門では、「具眼」に当たる具体的な取り組みとして、業務遂行に必要な知識習得に積極的に取り組んでいます。令和4年4月から令和5年3月までに、計11名の事務職員が、各担当業務に直結する資格・検定を受験し合格しました。

習得した知識・技能を業務へ活かしていただき、更なる自己研鑽によるステップアップが期待されます。



知的財産管理技能検定3級	研 究 支 援 課 鶴飼 広主事 (R4.4.26)
Webクリエイター能力認定試験	教 学 課 野々健太主任 (R4.7.16)
医師事務作業補助者検定試験	経 営 戦 略 推 進 事 務 室 岩田佑果主任 (R4.8.15)
ITパスポート試験	医 事 課 伊藤友一主事 (R4.7.16)
Microsoft Office Specialist Powerpoint 2019 Associate	用 度 課 加藤佑輝主事 (R4.9.24)
医療情報技師	用 度 課 稲葉 茂主査 (R4.11.1)
ビジネス文書技能検定3級	学 生 課 小嶋梨紗子主事 (R4.12.22)
Excel VBAベーシック	医 事 課 伊藤友一主事 (R4.12.25)
施設基準管理士認定試験	人 事 ・ 厚 生 室 岩田佑果主任 (R5.1.20)
秘書技能検定試験2級	総 務 ・ 秘 書 室 徳田梨乃主事 (R5.2.5)
医療経営士3級	用 度 課 加藤佑輝主事 (R5.2.26)
MOS2016スペシャリスト	医 事 課 那須彩花主事 (R5.3.4)
診療情報管理士	地 域 医 療 連 携 課 増田阿耶主任 (R5.3.22)
Microsoft Office Specialist Excel	総 合 学 術 情 報 セ ン タ ー 事 務 室 志知孝一主査 (R5.3.24)

※資格取得当時の所属と役職を記載

研究助成等採択者

◇公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団

研究助成2023年度（後期）

・氏名 伊藤寿英（看護学部・助教）
 研究題目 在宅療養者及び家族が求める
 訪問看護師への在宅安全ニーズ
 助成金額 351,900円

◇公益社団法人日本透析医学会

公募研究助成

・氏名 伊藤恭彦（内科学講座(腎臓・
 リウマチ膠原病内科)・特命
 教授)
 研究題目 腹膜透析における腹膜機能障
 害，線維化に対するトランス
 グルタミナーゼをターゲット
 とした新規治療戦略の検討
 助成金額 2,660,000円

◇日本私立学校振興・共済事業団

2023年度若手研究者奨励金

・氏名 竹内堂朗（解剖学講座・助教）
 研究題目 ウルトラファインバブルの調
 剤における抑泡効果の解明
 助成金額 400,000円

◇公益財団法人市原国際奨学財団

研究助成

・氏名 伊藤卓治（加齢医科学研究所
 (神経iPS細胞研究部門)・助教)
 研究題目 疾患特異的iPS細胞を用いた
 運動ニューロン疾患の神経・
 筋シナプス機能の解析

助成金額 500,000円

・氏名 松井卓哉（生理学講座・講師）
 研究題目 肺腺がん治療薬の開発を指向
 したミカン科新規カルバゾー
 ルアルカロイドの緩徐な細胞
 死誘導と浸潤・遊走抑制の制
 御系の解明

助成金額 500,000円

◇公益財団法人川野小児医学奨学財団

研究助成

・氏名 宮原弘明(加齢医科学研究所・
 准教授)
 研究題目 乳幼児の予期せぬ突然死
 (SUDI) における「原因不明
 の突然死」の原因究明

助成金額 2,400,000円

◇公益財団法人喫煙科学研究財団

研究助成（若手研究）

・氏名 山村彩（生理学講座・講師）
 研究題目 低酸素肺血管障害からアプ
 ローチする慢性呼吸器疾患の
 分子機構の解明

助成金額 1,000,000円

奨学金制度の活用

◇公益財団法人豊秋奨学会

2023年度大学院奨学生（博士後期課程）

- ・ 研究科名 医学研究科
- ・ 氏 名 藤岡大樹
- ・ 金額・期間 月額5万円（3年間）
- ・ 研究内容 運動による転写制御の分子機構の
解明
- ・ 指導教授 増渕悟教授（生理学講座）

外国人研究員のご紹介

本学において研修するため、外国人研究員として来学された方をご紹介します。（敬称略）



モハナ シャシャンク ディヴィ
Mohana Sasank Deevi

国 籍：インド

現 職：クルヌール医科大学講師
(脳神経外科・血管内脳神経外科)

受入講座：脳神経外科学講座

研究期間：R5.3.12～R5.4.30（2か月）

研究課題：脳卒中に対する脳血管内治療の新しい
治療技術の学習



学 位 授 与

◆大学院医学研究科



岡本 知士

学位授与番号 甲第639号

学位授与年月日 令和5年3月4日

論文題目：「Amount of proteinuria as associated with severity

classification of pregnant women with preeclampsia (妊娠高血圧腎症における尿中蛋白排泄量と母体重症度との関連)」



川出 由佳

学位授与番号 甲第640号

学位授与年月日 令和5年3月4日

論文題目：「Relationship between cognitive domains and hearing

ability in memory clinic patients: how did the relationship change after 6 months of introducing a hearing aid? (もの忘れセンター外来患者における認知領域と聴力との関係：補聴器導入6カ月後にどのように変化したか?)」



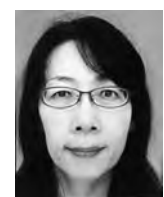
北村 文也

学位授与番号 甲第641号

学位授与年月日 令和5年3月4日

論文題目：「Relationship between doses of antihypertensive drugs

and left ventricular mass index changes in hemodialysis patients in a Japanese cohort (日本人コホートにおける血液透析患者の降圧薬投与量と左心室質量指数変化との関係)」



篠田 かおる

学位授与番号 甲第642号

学位授与年月日 令和5年3月4日

論文題目：「Effect of interprofessional education on cadaver dissection

seminar (解剖セミナーにおける多職種連携の学習効果)」



鈴木 千春

学位授与番号 甲第643号

学位授与年月日 令和5年3月4日

論文題目：「Cardioprotection via Metabolism for Rat Heart

Preservation Using the High-Pressure Gaseous Mixture of Carbon Monoxide and Oxygen (一酸化炭素と酸素の混合ガスを用いた高压気相保存法にて保存されたラット心臓における代謝を介した保護作用)」



田中 紘也

学位授与番号 甲第644号

学位授与年月日 令和5年3月4日

論文題目：「Interleukin-6 blockade reduces salt-induced cardiac

inflammation and fibrosis in subtotal nephrectomized mice (5/6腎摘マウスにおいて、IL-6受容体阻害薬は塩分負荷が惹起する心臓の炎症と線維化を抑制する)」



沼本 真吾

学位授与番号 甲第645号

学位授与年月日 令和5年3月4日

論文題目：「Acute encephalopathy in children with tuberous sclerosis

complex (小児結節性硬化症における急性脳症)」



Mrityunjoy Biswas

学位授与番号 甲第646号

学位授与年月日 令和5年3月4日

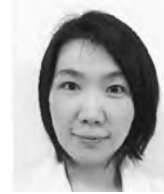
論文題目：「Cell surface expression of human RP105 depends on

N-glycosylation of MD-1 (ヒトRP105の細胞表面発現はMD-1のN型糖鎖付加に依存する)」



藤田 貢平

学位授与番号 甲第647号
学位授与年月日 令和5年3月4日
論文題目：「Relationship of loudness-dependent auditory evoked potentials with change-related cortical responses (ラウドネス依存性聴覚誘発電位と変化関連脳皮質反応の関連性)」



石原 (井戸) 美来

学位授与番号 甲第651号
学位授与年月日 令和5年3月4日
論文題目：「Clinical performance of digital breast tomosynthesis-guided vacuum-assisted biopsy: a single-institution experience in Japan (マンモグラフィ石灰化病変におけるトモシンセシスガイド下吸引式組織生検の有用性)」



水野 大輔

学位授与番号 甲第648号
学位授与年月日 令和5年3月4日
論文題目：「Recurrent position and innervation pattern of recurrent peroneal nerve: A cadaveric study (腓骨反回枝の反回する位置と分布パターン：解剖学的研究)」



杉本 奈扶美

学位授与番号 甲第652号
学位授与年月日 令和5年3月4日
論文題目：「Effect of empagliflozin on *Candida glabrata* adhesion to vaginal epithelial cells (膾上皮細胞への*Candida glabrata*の接着に及ぼすエンパグリフロジンの影響)」



山梨 裕貴

学位授与番号 甲第649号
学位授与年月日 令和5年3月4日
論文題目：「Efficacy of Methotrexate on Rat Knee Osteoarthritis Induced by Monosodium Iodoacetate (ヨード酢酸にて作成した変形性膝関節症ラットに対するメソトレキサートの有効性について)」



笹島 沙知子

学位授与番号 甲第653号
学位授与年月日 令和5年3月4日
論文題目：「Thermal gradient ring reveals thermosensory changes in diabetic peripheral neuropathy in mice (マウス糖尿病性末梢神経障害における温痛感覚変化を明らかにする温度勾配装置(Thermal Gradient Ring)を用いた分析)」



楊 鈞雅

学位授与番号 甲第650号
学位授与年月日 令和5年3月4日
論文題目：「Comparison of the decompressive effect of different surgical procedures for dysthyroid optic neuropathy using 3D printed models (3Dプリントモデルを用いた甲状腺視神経症に対する眼窩減圧術の減圧効果の比較)」



杉田 虎太郎

学位授与番号 甲第654号
学位授与年月日 令和5年3月4日
論文題目：「Long-lasting leukocytosis in patients with schizophrenia treated with clozapine after electroconvulsive therapy: ECT stabilizes white blood cell count (電気けいれん療法後(ECT)にクロザピンで治療された統合失調症患者の長期持続性白血球増加：ECTは白血球数を安定させる)」



青山 貴洋

学位授与番号 甲第655号
学位授与年月日 令和5年3月4日
論文題目：「Physical and dosimetric characterization of thermoset shape memory bolus developed for radiotherapy (放射線治療用熱硬化性形状記憶ボラスの物理的および線量的特性評価)」



上島 順子

学位授与番号 甲第656号
学位授与年月日 令和5年3月4日
論文題目：「SARC-F Predicts Mortality Risk of Older Adults during Hospitalization (SARC-Fは入院中の高齢者の死亡リスクを予測する)」



大塚 俊

学位授与番号 甲第657号
学位授与年月日 令和5年3月4日
論文題目：「Efficacy of urea solution reperfusion to a formalin-embalmed cadaver for surgical skills training (ホルマリン固定遺体への尿素の再灌流が外科手術手技トレーニングに及ぼす影響)」



越野 顕

学位授与番号 甲第658号
学位授与年月日 令和5年3月4日
論文題目：「High phospho-histone H3 expression uniquely predicts favorable survival among four markers of cellular proliferation in colorectal cancer (大腸がんにおける細胞増殖の4つのマーカーのうち、リン酸化ヒストンH3の高発現は一意に有利な生存を予測する)」



城 由起子

学位授与番号 甲第659号
学位授与年月日 令和5年3月4日
論文題目：「Changes in visual attentional behavior in complex regional pain syndrome: A preliminary study (複合性局所疼痛症候群患者の注視行動変化：予備的研究)」



杉村 明佳音

学位授与番号 甲第660号
学位授与年月日 令和5年3月4日
論文題目：「Expression and Prognostic Significance of CD47-SIRPA Macrophage Checkpoint Molecules in Colorectal Cancer (大腸癌におけるマクロファージチェックポイント分子CD47-SIRPAの発現と臨床病理学的意義)」



石川 綾華

学位授与番号 甲第661号
学位授与年月日 令和5年3月9日
論文題目：「Impact of Menopause and the Menstrual Cycle on Oxidative Stress in Japanese Women (日本人女性における閉経と月経周期が酸化ストレスに及ぼす影響)」



Wu Yanhua

学位授与番号 甲第662号
学位授与年月日 令和5年3月23日
論文題目：「Isolation of the Anti-inflammatory Agent Myceliostatin from a Methionine-Enriched Culture of *Myceliophthora thermophila* ATCC 42464 (メチオニン添加培養した *Myceliophthora thermophila* ATCC 42464からの抗炎症物質の単離)」



日高 悠嗣

学位授与番号 乙第420号

学位授与年月日 令和5年2月9日

論文題目：「Two-year outcomes of low-exposure extended-release tacrolimus and mycophenolate mofetil regimen in *de novo* kidney transplantation: A multi-center randomized controlled trial (生体腎移植における低濃度タクロリムス徐放性製剤とミコフェノール酸モフェチル併用レジメンに対する多施設共同ランダム化比較試験)」



藤崎 宏之

学位授与番号 乙第421号

学位授与年月日 令和5年2月9日

論文題目：「Long-term results of laparoscopic Hassab's procedure for esophagogastric varices with portal hypertension (門脈圧亢進症に伴う食道胃静脈瘤に対するHassab手術の長期結果)」



下 和弘

学位授与番号 乙第422号

学位授与年月日 令和5年3月9日

論文題目：「Effects of a 12-week workplace counseling program on physical activity and low back pain: A pilot randomized controlled study (12週間の職場における面談介入の身体活動量および腰痛への効果)」

◆大学院看護学研究科



木下 光香

学位授与番号 第161号

学位授与年月日 令和5年3月4日

論文題目：「歯科診療におけるCOVID-19流行前後のPPEの使用状況と必要性の認識」



徳田 浩一

学位授与番号 第162号

学位授与年月日 令和5年3月4日

論文題目：「手術室看護師の器械出し中に発生した針刺し・切創の背景に関する実態調査」



小栗 生江

学位授与番号 第163号

学位授与年月日 令和5年3月4日

論文題目：「特別養護老人ホームにおける看護師による入所者の感染徴候の把握と医療機関受診の現状」



里 昌樹

学位授与番号 第164号

学位授与年月日 令和5年3月4日

論文題目：「診療看護師 (NP) 自己効力感 (Self Efficacy) に関する影響要因」



当間 健治

学位授与番号 第165号

学位授与年月日 令和5年3月4日

論文題目：「集中治療室での早期リハビリテーションプロトコルの有用性」



中野 智子

学位授与番号 第166号

学位授与年月日 令和5年3月4日

論文題目：「診療看護師 (NP) の職務満足に関連する要因分析」



中村 麻依

学位授与番号 第167号

学位授与年月日 令和5年3月4日

論文題目：「COVID-19流行時の緩和ケア病棟における家族看護に対する看護師の認識と家族ケア」



林 礼

学位授与番号 第168号
学位授与年月日 令和5年3月4日
論文題目:「訪問看護における
COVID-19拡大に伴う標準予防策の
認識・実施状況の変化」



宮田 真澄

学位授与番号 第170号
学位授与年月日 令和5年3月4日
論文題目:「診療看護師 (NP) のバー
ンアウトに影響を与える要因分析」



藤澤 恵児

学位授与番号 第169号
学位授与年月日 令和5年3月4日
論文題目:「入職時から新型コロナ
ウイルス感染症病棟に勤務する看護
師の看取り体験」

令和5年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構 委託研究開発契約の締結

令和5年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託研究課題が採択され、次のとおり研究契約を締結しました。

(金額単位:円)

研究事業名	研究開発担当者	委託研究開発費	研究開発課題名
脳とこころの研究推進プログラム	祖父江 元長 学 部	91,000,000	孤発性筋萎縮性側索硬化症の双方向トランスレーショナル研究による病態介入標的の同定と核酸医薬の開発研究
難治性疾患実用化研究事業	熱田 直樹 医学部 内科学講座(神経内科), 准教授	13,000,000	筋萎縮性側索硬化症の診療に直結するリアルワールドエビデンスの創出
予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業	天野 哲也 医学部 内科学講座(循環器内科), 教授	29,899,766	経皮的冠動脈形成術後の重症化予防を目的とする遠隔行動変容支援と外来診療との効果的連携に関する研究開発
肝炎等克服実用化研究事業 B型肝炎創薬実用化等研究事業	伊藤 清顕 医学部 内科学講座(肝胆臓内科), 教授(特任)	75,400,000	未感染肝細胞への感染制御によりHBV排除を可能にする新規薬剤開発

- ・ 令和5年4月1日から4月30日までの日本医療研究開発機構委託研究の代表課題を記載。
- ・ 委託研究開発費は、他機関への再委託費及び間接経費を含む。

本学講座等の主催による学会等

【学会名】	【開催日】	【会長等】
・第36回日本消化器内視鏡学会東海セミナー	令和5年2月6日（月）～20日（月）	小笠原尚高
・第25回日本異種移植研究会	令和5年2月18日（土）	小林 孝彰
・第46回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会	令和5年3月3日（金）・4日（土）	藤本 保志
・第13回肥満と消化器疾患研究会	令和5年4月5日（水）	春日井邦夫
・第10回日本サルコペニア・悪液質・消耗性疾患研究会	令和5年4月8日（土）	森 直治

第36回日本消化器内視鏡学会東海セミナー

令和5年2月6日（月）～20日（月）の2週間、第36回日本消化器内視鏡学会東海セミナーがオンデマンド配信で開催されました。支部開催のセミナー受講は、消化器内視鏡専門医の新規申請・更新に必須となっており、日本消化器内視鏡学会東海支部の会員を中心に297名の参加がありました。

これまでに開催された東海セミナーでは、高名な上級指導医による講演がほとんどでしたが、今回の東海セミナーでは、より実臨床で活躍されている若手指導医を中心に講演いただきました。受講される医師の多くは、これから消化器内視鏡専門医を取得する若手医師のため、専門性の極めて高い講演のみではなく、普段の臨床現場で経験する症例、診断や

内科学講座（消化管内科）・教授（特任） 小笠原 尚高

治療に難渋した症例などを提示いただき、診断のポイント、治療のコツなど実臨床ですぐに役立つ知識について講演いただきました。また、基幹病院の第一線で活躍されている女性の指導医にも講演いただき、内視鏡医師としてのキャリア形成、女性医師としての内視鏡専門医の理想像、目標などについてもお話をしていただくなど、魅力あるプログラムを企画致しました。

今回、セミナーを開催するに当たり、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からご支援をいただきましたことに、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

第25回日本異種移植研究会

令和5年2月18日（土）大学本館たちばなホール及びC棟2階C201講義室において、第25回日本異種移植研究会（<https://square.umin.ac.jp/rtx/>）が開催されました。

令和3年秋から令和4年初めにかけて、アメリカで遺伝子組み換えブタから脳死患者への腎・心移植、待機患者への心移植が行われ、世界中が高い関

外科学講座（腎移植外科）・教授 小林 孝彰



研究会終了後に関係者の皆さんと記念撮影

心を持って注目している時期です。本研究会のタイトルは、「REVISITING XENOTRANSPLANTATION～臨床応用に今、必要なこと～」とし、臓器提供不足が深刻な問題となっている日本でも、異種移植を真剣に考えるときが来ているのではないかと考えております。

研究会では、この領域の第一人者であるDavid KC Cooper先生 (MGH, USA) に特別講演で異種臓器移植の現状と将来について、Eliezer Katz先生 (eGenesis, USA) に基調講演で遺伝子組み換えブタ作出企業から臨床試験開始に向けての準備状況についてお話をいただきました。また、本学の祖父江元 理事長には、これらの講演に先立ち、ごあいさつをしていただきました。シンポジウムでは、「異種移植を日本で実施するためには何が必要か？」

というタイトルで、遺伝子組み換えブタ作出・管理、免疫応答・免疫抑制、感染症、再生医療、法・規制、倫理について専門家からの発表や討論があり、特に厚生労働省からの参加もあり、有意義な話し合いが行われました。昨年、一昨年と新型コロナウイルス感染症感染拡大のためオンライン (Web) での開催でしたが、今回は3年ぶりのオンサイトで研究会となりました。参加者は150名を超え、例年より多くの方に出席していただき、久しぶりの対面での旧交を温め、情報交換をしていただきました。

最後に、一般財団法人愛知医科大学愛恵会よりご支援をいただきましたことに心より御礼申し上げます。また、研究会の準備、運営にご協力いただいた皆さまに感謝申し上げます。

第46回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会

令和5年3月3日 (金)・4日 (土) の2日間、第46回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会が開催されました。令和2年度は延期、令和3年度は完全Web開催、令和4年度はハイブリッド開催でしたが、新型コロナウイルス感染症の状況がやや落ち着いたこともあり、令和5年度はウインクあいちにおいて現地開催することができました。

八つのシンポジウム、二つの講演のほか、一般演題には過去最多となる124題を応募していただきました。なお、ポストコンgresセミナーも含め、シンポジウム等はオンデマンドで後日配信も致しました。耳鼻咽喉科・頭頸部外科、リハビリテーション科、脳神経内科、小児外科、歯科、言語聴覚士、看護師、栄養士及び49名の学生にも参加していただき、合計976名とこれも過去最多 (コロナ

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座・教授 藤本 保志 禍前の670名が最多) の方にお集まりいただくことができました。学会テーマについては、「嚥下について熱く語ろう」としましたが、期待通りにとっても熱気のある学会となりました。嚥下の世界には頭頸部癌、栄養とサルコペニア、神経難病、新しい訓練法、手術治療など、多岐にわたる話題がありますが、それぞれの専門家が一堂に集まることができる学会の良さを実感できました。この度の開催においては、準備段階から大変多くの方々のご助力をいただきました。無事に開催できたことは、全てご指導いただいた皆さまのおかげでございます。

本学会の開催に当たっては、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からご支援をいただきましたことに、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

第13回肥満と消化器疾患研究会

内科学講座（消化管内科）・教授 春日井 邦夫

令和5年4月5日（水）長崎県の出島メッセ長崎において、第13回肥満と消化器疾患研究会が開催されました。この研究会は、日本消化器病学会の関連研究会であり、肥満による消化器疾患の病態解明と治療法の進歩に焦点を当てて学術発表と情報交換を行う、今、注目の研究会です。なお、新型コロナウイルス感染症の影響も考慮して、現地とWebを組み合わせたハイブリッド形式での開催としました。

当日は、一般演題9件、シンポジウム9件、スポンサーセミナー及び特別講演を計画しました。

特別講演では、本学内科学講座（糖尿病内科）の神谷英紀教授に「糖尿病診療における肥満症治療の最前線」と題した、現在の糖尿病治療から最新の肥満症治療について興味深い講演をしていただきました。遠方である長崎県での開催にも関わらず、60名を超える方々に参加いただきました。ハイブリッド形式での開催ではありましたが、活発な議論が行われ、大きな問題もなく成功裏に終了することができました。末筆になりますが、この研究会の開催に当たり、皆さまの多大なるご支援とご協力に心より感謝申し上げます。

第10回日本サルコペニア・悪液質・消耗性疾患研究会

緩和ケアセンター・教授 森 直治

令和5年4月8日（土）ウインクあいち（愛知県産業労働センター）において、第10回日本サルコペニア・悪液質・消耗性疾患研究会を開催させていただきました。【写真】

日本サルコペニア・悪液質・消耗性疾患研究会（JSCW）は、サルコペニア、悪液質に代表される骨格筋量、体蛋白量が減少する病態への関心が世界的に高まる中、これらの日本での定義、診断基準、治療方法などについて、多領域の研究者及び多職種の臨床家が交流できる場として発足されました。平成26年に第1回学術集会を東京で開催以降、回を重ねるごとに熱いディスカッションが行われる活気のある研究会となりました。

直近3年間はコロナ禍にあり、オンラインでの開催となっていましたが、記念すべき第10回目の学術集会は、メインテーマを「悪液質をめぐるサイエンスとアート」と題し、久しぶりに現地での開催となりました。全国から、この領域を代表する研究者が集まり、講演、セミナー、シンポジウ



ム、パネルディスカッション、一般口演演題と、朝から夕方まで熱い討議が行われました。閉会に当たり、研究会発足から10年が経ち、本学術集会終了後には第二代理事長として私、森が就任して新理事体制で更なる発展を目指すことと、次年度の学術集会は横浜での開催とすることを告知し、無事に終了することができました。

本研究会の開催に当たり、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からご支援いただきましたことに、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

目の前の命を救うために

救急集中治療医学講座・教授 渡邊 栄三

【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

救急集中治療医学講座は、救急科と集中治療科とのダブルボードを取得し、救急集中治療（Critical Care）領域で国内外のリーダーとなれるような臨床医の育成を目指します。救急診療に最も求められるものは、その急性期病態の把握と、迅速かつ適切な対応ですが、対症療法に留まらず病態生理を探求した上で、重症化した患者に対しても最後まで諦めない姿勢の必要性を説いていきたいと思えます。大学病院は最後の砦とよく言われます。我々が最重症患者に対して最後まで諦めずに診療し続けることは、例え、その目の前の患者さんの転帰が思いどおりとならなくとも、苦闘した経験は、次の重症患者さんの診療に必ず生きてきます。そして、それは大学病院救命ICU（集中治療室）の一つの責務です。

一方、目指すべき医学教育のグローバルスタンダードとしては、多職種連携がkey wordとなります。multidisciplinaryなプロフェッショナル・チームが、各職種（例えば、看護師のみならず臨床工学技士や薬剤師、理学療法士など）で地域のリーダーとなれるような人材育成を同時に目指していきます。その中で医学生には、臨床実習を通じてチーム医療を体験してもらい、メディカルスタッフからも指導・評価を受けるような体制で医学教育を行っています。

【世界に発信する医学研究】

救急集中治療の主目的は、重症患者の生理的環境を、各病態に即した最適な状態にいち早く持ち込み、維持することにより、原因疾患の治療と回復を

図ることです。

そのためには、各種モニタリング手法や人工補助療法を駆使しながら、患者さん個々の病態に応じたtitration therapyを行い、診断と治療を並行して行う必要があります。各種人工補助療法、すなわち、急性血液浄化法やECMOなどの効果に関する臨床研究も精力的に行ってきましたが、患者個々への治療、precision medicineに関する最近の進歩は、更に目を見張るものがあります。我々は、バイオマーカー検索の鍵となるomics研究に、Critical Care領域でいち早く着手しました。

現在は、ICUでの死因の多くを占める敗血症において、メタボロミクスのデータをまとめています。他方、その敗血症においては、免疫麻痺が超急性期の炎症反応よりも制御困難な病態として注目されており、我々は治験も含めた免疫麻痺に対する免疫賦活療法の研究を国内外で主導しています。

【部署からの一言】

救急集中治療医学講座では、「Academic Critical Care」をモットーに、研究・教育・臨床の3本柱を集結して救急患者全例救命を目指しています。救急現場に医療スタッフが赴き、病院前から早期に治療を開始するドクターヘリ、救急蘇生室ではHybrid ER（重症救急患者の救命に必要な緊急処置が1カ所のできる治療室）の導入も決定しており、それらを駆使した早期治療介入による救命率向上を目指します。そのような中で、我々の研究が一人でも患者救命に繋がることを実感できれば望外の喜びです。



愛知ドクターヘリ、ヘリ格納庫前にて



医学生に対する超音波診断装置シミュレーターを用いた実習風景

～大学・病院を支える笑顔豊かなスタッフ陣～

「Smile ～スマイル～」では、大学・病院で活躍する職員の笑顔にスポットライトを当てて、各部署における活動内容や取り組み等について紹介致します。

人工関節センター

人工関節センターは、平成28年に設置されました。変形性関節症、関節リウマチ、骨壊死などの疾患を対象として、人工膝関節置換術を年間に100件、人工股関節置換術を150件行っています。人工関節置換術の利点は、除痛効果が高く早期の回復が期待できることで、患者さんの日常生活を劇的に改善します。いわゆる健康寿命の延伸、生きている限り自分の脚で歩くという目標を強力にサポートします。

本センターでは、整形外科医師を中心にリハビリテーション科、運動療育センターなどと連携したチーム医療を重視しています。リハビリテーション科にて術前から関節機能の評価とリハビリテーションを開始し、術後の歩行能力や日常生活動作の更なる改善を目



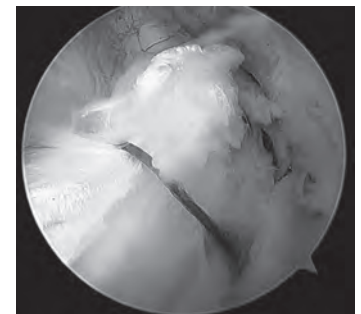
手術の様子

指しています。退院後は運動療育センターで水中歩行訓練などを含めた運動療法を継続することが可能です。

手術には支援ロボットMakoを導入し、手術計画と施行がより精密かつ低侵襲になっています。手術だけでなく術前からトータルケアを提供することによって、患者さんの満足度を更に向上させるように取り組んでいます。

スポーツ医科学センター

平成28年に設置されたスポーツ医科学センターでは、整形外科医師を中心としてスポーツ競技者の外傷・障害及び疾病に対する専門的治療を行っています。手術としては、年間に靭帯再建手術を50例、半月板手術を50例、関節軟骨欠損に対する自家培養軟骨又は骨軟骨柱移植を20例行っています。スポーツ医学では手術に加えて適切なリハビリテーションが非常に大切です。リハビリテーション科や運動療育センターとの協力のもとで、医師だけでなく理学療法士など多職種を交えたチーム治療を実践しており、早期スポーツ復帰を目指したりハビリテーションを各障害部位の専門家が提案して実施します。患者さん個々の状態や重症度、競



左：運動療育センターとの連携
右：前十字靭帯再建術

技復帰に要する身体機能及び目指す競技レベルを考慮し、最適な復帰計画をサポートしています。

スポーツ医学は整形外科の中でも主要な診療分野の一つです。あらゆるレベルの競技者にベストな対応ができるように、診療科や職種を超えたスポーツ診療チームとしての活動を活性化していきます。

規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

クロス・アポイントメント制度導入に係る関係規則の整備

研究者等が大学等の中で、二つ以上の機関に雇用されつつ、一定のエフォート管理のもとで、それぞれの機関における役割に応じて研究・開発及び教育に従事することを可能にするクロス・アポイントメント制度を導入するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和5年4月1日

【新規制定】

- ・学校法人愛知医科大学クロス・アポイントメント制度に関する規程

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学就業規則
- ・愛知医科大学利益相反規程

事務決裁規程の一部改正

学校法人愛知医科大学事務決裁規程の一部が改正され、メディカルセンター事務部における決裁基準等が整備されました。

施行日は令和5年5月1日

診療支援課設置に係る関係規則の整備利用

医師事務作業補助者、看護補助者等の体制整備や医療従事者の負担軽減等に関する業務を行う診療支援課を新たに設置するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和5年4月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学病院働き方改革推進委員会規程
- ・愛知医科大学病院医師事務作業補助者業務部会規程

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学事務組織規程
- ・病院事務部事務分掌について（法人本部長・事務局長裁定）
- ・愛知医科大学病院医師事務作業補助者業務規程

【廃止】

- ・愛知医科大学病院働き方改革推進委員会要綱

育児休業等に関する規程の全部改正

学校法人愛知医科大学育児休業等に関する規程の全部が改正され、法令改正に伴い、出生時育児休業に関する事項等が整備されました。

施行日は令和5年4月1日

管理職手当に関する細則の一部改正

管理職手当に関する細則の一部が改正され、眼科クリニックMiRAIの看護科長が管理職手当の支給対象となりました。

施行日は令和5年2月1日

「メディカルセンターへの車移動に係る取扱いについて」の一部改正

令和5年4月1日付けで「メディカルセンターへの車移動に係る取扱いについて」（理事長裁定）の一部が改正され、高速道路利用手当の上限金額等が整備されました。

救命救急科の講座化に係る関係規則の整備

病院の診療科である救命救急科を講座化し、医学部に新たに救急集中治療医学講座を設置するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和5年4月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学医学部の学科目及び講座に関する規程
- ・愛知医科大学大学院医学研究科の研究指導及び講義等の担当教員に関する規程
- ・愛知医科大学大学院医学研究科履修規程

医学部奨学金貸与規程の一部改正等

愛知医科大学医学部履修規程の一部が改正され、追試験における成績評価方法及び授業科目等が整備されました。

施行日は令和5年4月1日

「医学部における成績優秀な学生に対する学納金の一部減免及び表彰について」の一部改正等

成績優秀な医学部在学学生に対する学納金の一部減免及び表彰並びに卒業時表彰の基準等を改めるため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和5年4月1日

【一部改正】

- ・医学部における成績優秀な学生に対する学納金の一部減免及び表彰について（学長裁定）
- ・医学部卒業時表彰基準（医学部長裁定）

医学部倫理審査実施規程の一部改正等

医学部における倫理審査の手続き等を改めるため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和5年4月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学医学部倫理審査実施規程
- ・愛知医科大学医学部倫理委員会規程

「倫理審査手数料の額について」の一部改正

令和5年4月1日付けで「倫理審査手数料の額について」（理事長裁定）の一部が改正され、多機関共同研究（一括審査）実施時の追加審査料が整備されました。

「医学部における医学研究に関する補償方針」の一部改正等

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針が整備されたことに伴い、同指針に対応するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和5年4月1日

【一部改正】

- ・医学部における医学研究に関する補償方針（医学部長裁定）

【廃止】

- ・病院における医学研究に関する補償方針（病院長裁定）

看護学研究科履修規程の一部改正

愛知医科大学大学院看護学研究科履修規程の一部が改正され、令和5年度入学生の授業科目等が整備されました。

施行日は令和5年4月1日

医療安全管理委員会規程の一部改正

愛知医科大学病院医療安全管理委員会規程の一部が改正され、委員構成等が整備されました。

施行日は令和5年4月1日

臨床研究審査委員会規程の一部改正

愛知医科大学病院臨床研究審査委員会規程の一部が改正され、臨床研究法施行規則の改正に伴う所要の事項が整備されました。

施行日は令和5年4月1日

看護部規程の一部改正

愛知医科大学病院看護部規程の一部が改正され、看護部の各部門等の業務内容に関し、必要な事項が整備されました。

施行日は令和5年4月1日

看護師特定行為管理規程の一部改正等

本院で行う看護師特定行為研修に新たにジェネラル領域を追加するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和5年4月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学病院看護師特定行為研修管理規程
- ・愛知医科大学病院看護職員奨学金貸与規程

メディカルセンター規程の一部改正

愛知医科大学メディカルセンター規程の一部が改正され、診療部に新たに消化器外科が設置され、また、透析センターが腎臓病センターに名称変更されました。

施行日は令和5年4月1日

メディカルセンター職員研修管理委員会規程の制定

メディカルセンターにける職員研修を効率的、効果的に実施するため、愛知医科大学メディカルセンター職員研修管理委員会規程が制定されました。

施行日は令和5年4月1日

メディカルセンター医薬品採用等取扱規程の制定等

メディカルセンターにおける医薬品等の新規採用等の取り扱いを定めるため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和5年4月1日

【制定】

- ・愛知医科大学メディカルセンター医薬品採用等取扱規程
- ・愛知医科大学メディカルセンター薬事委員会規程

メディカルセンター訪問看護ステーション運営規程（医療保険）の一部改正等

訪問看護ステーションの人員配置を変更するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和5年4月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学メディカルセンター訪問看護ステーション運営規程（医療保険）
- ・愛知医科大学メディカルセンター訪問看護ステーション運営規程（介護保険）